



JICA 地域別研修「中東地域
女性の健康支援を含む母子保健方策」研修報告書

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-12-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 永瀬, つや子, 草場, ヒフミ, Kusaba, Hifumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/1687

**2007 JICA Area Focused Training in
Women's Health and Maternal and Child Health
Support for the Middle East Countries**

JICA 地域別研修「中東地域 女性の健康支援を含む母子保健方策」

研修報告書



2007年7月

宮崎大学医学部看護学科
小児・母性(助産専攻)看護学講座
永瀬つや子、草場ヒフミ

JICA 地域別研修「中東地域 女性の健康支援を含む母子保健方策」
研修報告書

目次

1. 研修概要	1
2. 研修内容	3
3. その他のプログラム	25
4. 研修評価	29
5. 今後の研修への提言	31
6. 最後に	32
Annex I 研修日程一覧(研修内容、講師・研修場所・引率者)	33
Annex II 研修員リスト	35
Annex III 毎日の評価項目(和文・英文)様式例	36
Annex IV ファイナルレポート(和文・英文)様式例	38
Annex V 最終日日程表(和文・英文)	42
Annex VI 研修室を気持ちよく使用するためのルール(和文・英文)	44
Annex VII General Information(募集要項)	46

JICA 地域別研修「中東地域 女性の健康支援を含む母子保健方策」
2007 JICA Area Focused Training in
Women's Health and Maternal and Child Health Support for the Middle East Countries

1. 研修概要

1-1. 研修概要

コースタイトル(和文)	「中東地域女性の健康支援を含む母子保健方策」
コースタイトル(英文)	“ Women’s Health and Maternal and Child Health Support for the Middle East Countries”
協力年限	平成 19 年度から 21 年度までの 3 年間
割当対象国	アフガニスタン、ヨルダン、シリア、イラクの 4 カ国
本邦受入期間	来日から帰国日まで
技術研修期間	宮崎大学での研修初日から最終日まで (6/26-7/25)
定員	5 名
参加資格要件	(1) 所定の手続きに基づき相手国政府によって推薦された者 (2) 看護師、助産師、保健師またはヘルスワーカーの資格を持ち、当該分野において 5 年以上の経験を有する者。 (3) 25 歳以上 45 歳以下の者。 (4) 心身ともに健康な者。 (5) 軍に属していない者。
研修目標	(1) 日本で実施している母子保健や女性の健康支援のためのサービスの仕組みや政策について理解する。 (2) 母子保健を支える地域住人や利用可能な専門家の活動について理解を深める。 (3) 女性を暴力から守ったり自律的に自らの健康管理に参加するためのサービスやサポートを学び、自国でできる体制づくりを考えることができる。
宿泊施設	リバーサイド宮崎 (ウィークリーマンション) 〒880-0805 宮崎市城ヶ崎 3 丁目 3-1 (日豊本線南宮崎駅 城ヶ崎 バスで 10 分 徒歩 5 分) TEL 0985-50-9696 ・ FAX 0985-52-6245 http://www.riverside-miyazaki.com/
研修実施体制	本研修コースは、宮崎大学医学部看護学科が中心となり、関係機関等の協力のもとに計画、実施する。
導入プログラム	初年度は、ジェネラル・オリエンテーション (日本の政治・文化・教育・経済など基礎情報についての講義) が実施できないため、マルチメディア教材の活用を検討する。後日、郵送の予定。マルチメディア教材は、コーススケジュールに現段階では加えず、時間を見つけて適宜自習してもらおうスタイルでも可能と考える。

1-2. 研修スケジュール

月/日		午前	午後 1	午後 2	形式	
6/21	木	来日				
6/22-24		JICA 九州 ブリーフィング				
6/25	月	JICA 九州をチェックアウト	移動(北九州→宮崎)			
6/26	火	1 表敬訪問(宮崎大学医学部)	表敬訪問(学長、県庁)	16:00～ウェルカムパーティー	訪問	
6/27	水	2 Job Report 発表 意見交換	研修に対する期待や目的	地域母子保健行政	報告・講義	
6/28	木	3 宮崎の母子保健	母子保健活動	母性看護学実習室見学	講義	
6/29	金	ピア教育とピアカウンセリング				講義・演習
6/30	土	大学生による大学生を対象としたピアカウンセリング 研修員と学生の意見交換				演習・見学
7/1	日	休日				
7/2	月	振り替え休日				
7/3	火	6 周産期医療システム				講義・見学
7/4	水	7 周産期医療システム				講義・見学
7/5	木	8 日本助産師会・“か母ちゃっ子くらぶ”の活動	宮崎市立木花中 2 年生性教育思春期教育		講義・見学	
7/6	金	9 パパママ教室	性感染症と母子感染	ENP 学生との交流	講義・見学	
7/7	土	休日				
7/8	日	休日 大学病院外来ホールにて七夕のお茶会				
7/9	月	10 日本の看護教育	日本の看護継続教育	宮崎大学附属病院見学	講義・見学	
7/10	火	11 児童虐待	開業助産師と助産所の役割	くすの木保育園	講義・見学	
7/11	水	12 上田助産院	助産院での地域の子育て支援と意見交換		見学・討論	
7/12	木	13 県立都農高等学校への移動	県立都農高等学校でのピアエデュケーション		見学・討論	
7/13	金	14 自助グループ活動	県立宮崎病院女性専用外来		講義・見学	
7/14	土	休日				
7/15	日	休日				
7/16	月	海の日	宮崎の出産・育児文化と歴史(日南地域)		見学	
7/17	火	15 日南 池田助産院 開業助産師の活動				見学・討論
7/18	水	16 ぴんくりボン活動(乳がん予防)	3 歳児健康診査見学		講義・見学	
7/19	木	17 つぼみの寮(乳児院)の活動	子育て支援グループ活動	女性の生涯を通しての健康	講義・見学	
7/20	金	18 Domestic Violence(DV)	NPO による DV サポートの現状		講義	
7/21	土	休日				
7/22	日	休日				
7/23	月	19 看護協会	いきいき女性セミナー		講義・見学	
7/24	火	20 研修のまとめ				討論
7/25	水	21 ファイナルレポート発表会	評価会、閉講式、	farewell party	発表・討論	

1-3. 研修員概要

ヨルダン 助産師 1 名、シリア 産婦人科医師 1 名、アフガニスタン 産婦人科医師 2 名 計 4 名



▲ 宮崎県県庁表敬訪問: 宮崎県知事の等身大看板と研修員4名、研修監理員

1-4. 研修協力機関

宮崎県福祉保健部、宮崎県中央保健所、県立宮崎病院、宮崎市健康福祉課、宮崎市保健所、日本助産師会宮崎支部、“か母ちゃっ子くらぶ”、上田助産院、池田助産院、宮崎県看護協会、宮崎市立木花中学校、県立都農高等学校、つぼみの寮、NPO 法人ハートスペース M、ひよこの会、清武町子育て支援センター、くすの木保育園、宮崎大学医学部附属病院

2. 研修内容

1) 6月27日

(1) Job Report 発表会

司会 小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子

① 概要および所見

研修員 4 名がそれぞれの国の保健医療状況と研修員の活動内容や職場状況について、パワーポイント(以下 PPT)を使用して発表した。



▲PPT を使用して発表するアフガニスタン研修員

また、日本の状況においては English for Nursing Purpose (以下 ENP)受講の看護学科3年生7名が健康保険制度や地域母子保健サービス、看護教育について英語で PPT 資料を作成し、発表を行った。

看護学科教職員、英語科教員、看護学科大学院生、県立看護大学大学院生等の多数参加があった。

それぞれの発表で各国の現状や保健医療状況についての概要理解につながった。また、ENP 学生はよく準備できていたため、スムーズな発表であり内容もまとまっていたので、研修員の日本の保健医療状況の理解にもつながっていった。発表後の意見交換で、日本と各国々の状況の理解が深まった。



▲ENP 学生による発表

② 研修員の感想やコメント

日本の状況を知ることができた。また、ENP 学生にとっても良い学習の機会であった。時間の関係で、学生が全研修員の発

表を聞けなかったし、意見交換に参加できなかったのは残念であった。

③ 課題

ENP 学生は10時30分から講義があったため、最後まで発表に参加できなかった。次回は、学生が意見交換まで参加できるように講義の調整の必要がある。研修員は、それぞれ PPT 発表資料を作成していた。しかし、発表が2日目の8時40分からであったため、研修員自身が発表の予行練習ができなかった。そのため、初めに使用した PC では、動画が写せず発表途中で PC 交換作業等があり、時間のロスが生じた。また、前日に PPT データを提出するように説明していなかったため、当日にデータ持参するしかなく、資料の配布が発表後になった。発表のスムーズな進行やお互いの理解を深めるために発表の事前準備の時間が必要であった。



▲Job Report 発表会参加者

(2) オリエンテーション 研修に対する期待や目的の確認

担当 小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子

① 概要および所見

研修の目的やねらい、特に女性の健康支援の重要性について再確認を行った。今回の研修は、助産師や看護師、保健師を対象にしたコースであったが、ヨルダンの助産師以外は医師が参加ということで、

医師を対象としたプログラム内容でないことについて強調した。

研修員は、女性保健の重要さや医師対象の研修ではないことは理解していた。研修プログラム内容と目的の関連についてくわしく説明する予定であったが、研修員の体調を考慮して、次の講義時間開始を1時間早めたため、概略のみの説明となった。

② 研修員の感想やコメント

日本の保健医療システムについての説明が欲しかった。

③ 課題

研修員に十分に各研修のプログラムの内容とねらいについて説明できなかったため、研修目的と内容の関係性を理解できずに参加する内容もあった。研修の全体像を把握できる概要説明となるような工夫が必要であった。

(3) 講義 地域母子保健行政

担当 地域・精神看護学講座

教授 尾上佳代子

① 概要および所見

日本の地域保健行政システムと宮崎県の母子保健の概要についての講義であった。研修員の国々では保健センターで診療行為も行い、日本のように明確に保健と医療のサービスが区別されていないため、研修員は理解するのに長時間を要した。日本の保健医療サービスについての関心が高く、多くの質問があり、講師の準備していた内容が最後まで終了しない状況であった。講師は母子保健行政について、研修員の疑問に的確に返答していた。

研修員は、日本と自国の保健医療システム違いについて理解が深まり、以後の母子保健行政の学びを深める上での導入的講義となっていた。

② 研修員の感想やコメント

日本の保健医療システムについての理解が深まった。予算や料金システム(無料のサービスと有料サービスの違い等)についての詳しい説明が欲しかった。

③ 課題

日本と研修員の国々では保健医療システムが違っており、その点を理解するまでに時間が必要であった。研修員の国々のシステムを考慮に入れながら、保健医療行政の相違点を明確にすることが今後の学びを効果的に進めるポイントとなっていた。次回の研修でも講師と協力して研修の導入として最初に入れていく必要がある。

2) 6月28日

(1) 講義 宮崎の母子保健

担当 宮崎県健康増進課

主査 永野秀子

① 概要および所見

宮崎県の母子保健に関する統計データの特徴とそれをもとにした母子保健事業についての内容であった。前日の講義で母子保健行政についての基本的理解ができていたため、講義進行はスムーズであった。講師は研修員の国々の状況についての質問を行い、日本と比較しながら講義をすすめ、お互いのシステムの意見交換の場ともなった。

② 研修員の感想やコメント

前日の内容が補完され、理解が深まった。

③ 課題

前日の講義内容と連携していたため、研修員の理解につながった。今回県の健康増進課とのプログラム調整がうまくできたため、効果的な運びとなった。次回研修時も健康増進課と日程調整を行い、プログラム日程を調整していく必要がある。

(2) 講義 母子保健活動(母性看護の視点)

担当 小児・母性(助産専攻)看護学講座

教授 兵頭慶子

① 概要および所見

日本の母子保健行政の歴史的変遷を踏まえ、母子保健向上のための要因やその中での女性専門職(助産師、保健師等)の働きや住民参加についての内容であった。

研修員は昔の日本は、現在の自国の状況に似ている点や、日本と共通する文化や仕組み、助産師や保健師の役割、住民の協力の必要性について学んでいた。また、助産師学生が2名聴講し、現在助産師になるための学習中であることや、分娩見学のために待機中であることから、それぞれの国々の分娩数や分娩状況について討議ができた。

② 研修員の感想やコメント

日本の母子保健施策とその向上についてよく理解できた。

③ 課題

日本の母子保健向上のための施策の工夫や歴史的変遷についての内容が含まれていたが、最後の評価では、日本の母子保健向上のための歴史背景とその活動を学びたいとの意見があった。講義タイトルの工夫や歴史的流れを強調等が必要であった。

(3) 講義・見学 日本の保健医療ビデオ視聴と小児・母性(助産専攻)看護学講座実習室見学

担当 小児・母性(助産専攻)看護学講座

教授 兵頭慶子、講師 永瀬つや子

講師 水畑喜代子、助教 小嶋理恵子

① 概要および所見

最初は、今までの講義に関しての疑問点に答え意見交換する内容にしてあった

が、日本の保健医療システムについての理解を深めるために、JICA 作成の「Health and Medical Care System in Japan」の CD の視聴を行った。また、今までの講義が意見交換しながらの展開であり、現時点では研修員には疑問がなかった。また座学が続いたため、日本の看護・助産教育の一端を紹介するために、6 階小児・母性(助産専攻)看護学講座実習室の見学に変更した。

研修員は、CD 視聴で日本の母子保健システムの理解が深まった。実習室見学では、精巧につくられたモデルや実習室の構造に驚きと感激しながら、操作したり、写真をとったりしていた。聴講していた学生が分娩介助の演習や沐浴等を実演し、日本の助産師教育の一端に触れる機会となった。



▲助産専攻学生と研修員による分娩介助演習

② 研修員の感想やコメント

日本の看護教育の状況を少し理解できた。良かった。

③ 課題

研修員は宮崎到着して 4 日目で生活に慣れていない状況もあり、16 時以降になると疲労の様子が見られ、講義への集中力低下がみられた。研修第 1 週目に関しては、研修員の体調を考慮し講義ではなく演習や見学にすることや、午後早めに終了するなどの配慮が必要であった。ま

た今回実習室見学に関し、聴講学生の協力により効果的な見学となった。参加した学生にも良い学びの機会であった。実際の教育現場を見学し、学生と一緒に演習を行うなどは日本の教育現場の実際を知る機会となる。学生の講義や実習予定を考慮して、学生を研修の中組み込んでいく工夫が必要である。

3) 6 月 29 日

講義・演習 ピア教育とピアカウンセリング

担当 熊本大学 教授 前田ひとみ

(1) ピアカウンセリングの理解

(2) 自己理解・他者理解

(3) 思春期ピアカウンセリングの実際とその効果

① 概要および所見

日本の思春期の特徴と課題、エンパワメントの概念、行動変容のアプローチとしてのピアカウンセリングの概念の講義、自己理解と他者理解について演習を通して講義、実際のピアカウンセリングの現場とその紹介という 3 部構成の講義であった。



▲前田教授とディスカッションしながらの講義

研修員は、ピアカウンセリングやピアエデュケーションについて初めての内容で、とても熱心に受講していた。また、お互いに自己や他者理解についての演習を行

い、その必要性や新たな発見について実感できていた。



▲自分の好きなものを描き、発表するシリアの研修員



▲アフガニスタン研修員同士で共通点を探し発表

② 研修員の感想やコメント

素晴らしい内容で、国の仲間に伝え実践していきたい。クライアント理解や仲間理解にも活用できる手法であった。とても良い講義であった。

③ 課題

内容や講義に関して問題はなかった。ただし、ピアエデュケーションやピアカウンセリングは、思春期の性教育のみで活用している内容ではない。同じ課題やニーズのある仲間同士で課題解決を行っていく手法である。対象は、思春期だけではなく、妊産婦や子育てグループ、病気や障害を抱えた仲間同士など多様である。研修中のプログラム中でピアカウンセリングやピアエデュケーションとして紹介された

のがすべて思春期の性教育対象のもであった。そのため、研修員はピアカウンセリング＝思春期性教育の方法と理解している傾向があった。

最初の導入の講義では、行動変容やヘルスプロモーションの方法としてのピアカウンセリングやエデュケーションとし、その応用の一つとして思春期対象の性教育に活用している内容で講義したほうが、研修員の国々への更なる応用へとつながりやすいと考えた。

4) 6月30日

見学・演習 大学生による大学生を対象としたピアカウンセリング

担当 宮崎大学医学部看護学科学生 12名
オブザーバー 熊本大学 教授 前田ひとみ
地域・精神看護学講座 准教授 鶴田来美
小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子, 講師 水畑喜代子

① 概要および所見

宮崎大学医学部看護学科3年生のピアカウンセリング担当学生が、企画運営して大学生9名を対象にしてピアカウンセリングを実施した。研修員は、アイスブレイク等一部参加可能なプログラムに参加しながらピアカウンセリングの実際を見学した。



▲学生と一緒にオリエンテーションを受ける研修員

研修員は、プログラムの中で、学生達それぞれの多様な考え方を引き出し、認める手法に感嘆しながら参加していた。研修終了後に意見交換もでき学生との交流にもなった。また、研修終了後に鶴田准教授がインストラクターとなり実施した体操は、日本到着後の疲れを癒す効果になった。



▲相手のいい点を紹介しながらの自己紹介

② 研修員の感想やコメント

すばらしい手法であった。特に、傾聴やメッセージの伝え方、質問の工夫から学ぶコミュニケーションと自分の今までの人生を振り返り、今後の目標をお互いに語り合い、それぞれの人生を尊重することを学ぶライフプランニングは良かった。相手の理解や、性感染症の感染拡大のしくみをわかりやすく伝えていた。楽しみながら参加できた。



▲プログラムを見学する研修員

③ 課題

ピアカウンセリングの講義後に実際の活動を見学、体験でき非常に理解しやすかった。ただ、これを研修員の国々で応用するには、プログラム計画立案についての話がなかったので、できるのかという不安はある。また、今回のプログラム内容に関しては英語資料を配布したが、学生が作成したタイムテーブルやそれぞれのプログラムの説明や手法についての詳しい計画書兼説明の資料は英語で渡せなかった。研修員が自国でプログラムを作成する上でのヒントとなる資料やプログラムの立案と運営に関わる評価ポイントについての内容も必要ではないか。

大学 1～2 年生でピアカウンセリングに参加する学生が少なかった。ポスター作成や木花キャンパス教員に協力を求めて、学生への直接呼びかけ等を行ったが参加者が少なかった。今まで大学生対象のピアカウンセリングは実施されておらず、大学生への性教育を行うことも目的の 1 つであった。大学生のピアカウンセリング参加を促すための広報活動等についての工夫や配慮が必要であった。



▲参加した学生との記念撮影

5) 7月3日

講義・見学 周産期医療システム

担当 宮崎大学医学部生殖発達医学講座産婦人科学分野、産婦人科病棟、周産母子センター

(1) 宮崎県の周産期管理システム

教授 池ノ上 克

(2) 産婦人科病棟見学

助教 河崎良和, 看護師長 久保敦子

(3) 妊娠中の胎児評価

准教授 鮫島 浩

(4) 妊婦健診の実際

医師 大西淳仁

(5) 施設内助産師の役割

看護師長 久保敦子(産婦人科病棟)

(6) ディベロプメンタルケア

看護師長 三輪元子(周産母子センター)

① 概要および所見

宮崎県の周産期医療システムの概要とリファラルシステム、県の周産期医療向上のための研修会や症例検討会についての紹介、実際の妊産婦や胎児管理、実際の医療や医療の現場視察とその中で助産師の役割や早期産児への実際のケアについての講義であった。

研修員は、宮崎県で周産期医療向上に向けてのシステムや連携づくり、実際の医療やケアについて学んだ。

② 研修員の感想やコメント

講義は全体的に良い。連携を深めるための定期ミーティングやハイリスク妊産婦の定期的な情報交換、医師や看護職合同の勉強会などは素晴らしい。

午後に講義が多数あったため、16時以降は集中が難しかった。講義は、可能な限り午前中に行い、午後に見学等のプログラムを入れて欲しかった。

③ 課題

午後に講義が集中していたため、15時以降は研修員の集中力の低下がみられた。研修員は、10年前後の周産期医療

現場での経験のある医師と助産師であるという点を考慮すると、基本的な知識的な講義については今後検討し、講義のスリム化が必要であった。

6) 7月4日

講義・見学 周産期医療システム

担当 宮崎大学医学部生殖発達医学講座産婦人科学分野、産婦人科病棟、周産母子センター

(1) 周産母子センター見学

助教 児玉由紀, 看護師長 三輪元子

(2) 産婦人科外来見学

医師 大西淳仁

(3) 母親学級見学

助教 徳永修一

助産師 松下敦子(産婦人科病棟)

(4) 母親学級について

助産師 松下敦子(産婦人科病棟)

(5) 切迫早産の管理

講師 川越靖之

(6) 新生児蘇生

助教 児玉由紀

① 概要および所見

周産母子センターおよび産婦人科外来での施設や実際の医療やケア現場の視察から始まり、妊婦への健康教育の実際と意義や妊娠中の管理について学んだ。また、実際の新生児の緊急医療についての講義を受けた。

研修員は、自国では実施できないハイレベル医療に関して驚きと感嘆と自分達の新たな目標の一部を見出していた。

② 研修員の感想やコメント

ハイレベル医療と素晴らしいスタッフの活動に敬意を払う。とても素晴らしいシステムであるが、現在自国では実施できるレベルではないと思った。全体のプログラム内容はとてもよく勉強になった。新生児蘇生に関しては産婦人科医のトレーニングとして意義があった。講義は午前中

にして欲しかった。

③ 課題

前日同様、午後の講義設定については検討の必要があった。産婦人科医が4名中3名であったので、医学部学生の臨床講義に支障がなければ、一緒に講義に参加させてもらい意見交換をする等もおもしろい試みであるようにも思えた。今回は医師の参加が多かったので十分可能なことであるように思えた。また、研修員が助産師や看護師等であった場合でも、臨床経験が十分あれば、臨床講義参加でも対応できるように思えた。しかし、臨床講義に関しては、医学生の講義が優先する。また助産師、看護師では適応しないものや今回の研修目的に一致しない内容のものもあるので、十分な検討が必要である。

今回研修に関して生殖発達医学講座産婦人科分野と、講義場所等の細かな確認事項が抜けていたために、開始前に多少混乱があり迷惑をかけてしまった。来年のプログラム内容に関して、研修内容も踏まえ、スムーズな研修進行となるよう細かな打合せと確認が必要であった。

7) 7月5日

(1) 日本助産師会と“か母ちゃっ子くらぶ”の活動

担当 “か母ちゃっ子くらぶ”

助産師 森 伴子

小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子

① 概要および所見

日本助産師会の活動目的、特に職業団体として助産師の専門性と活動の向上を支援するための役割、日本助産師会の宮崎支部としての活動の多様化に対応するために設立された“か母ちゃっ子くらぶ”の活動目的と内容についての講義であった。また、午後から見学する思春期性教

育事業の概要と目的についての紹介があった。性教育に使用する手作り教材の紹介を受けた。

研修員は職業団体の意義やその活動の多様性について学んでいた。また、性教育教材の精巧さや工夫に感嘆していた。

② 研修員の感想やコメント

午後からの中学生対象の思春期性教育の参考となった。自分達も性教育教材の作成等に興味をもった。

③ 課題

“か母ちゃっ子くらぶ”の担当者は忙しい仕事の合間で、講義資料の準備をおこなってくださった。また、仕事の関係上資料作成の担当者と講師担当者が違うなど、“か母ちゃっ子くらぶ”間での調整も難しくあり、多少の混乱があった。講義に活用できるPPTを英語翻訳するは時間がなかったため、日本語のまま使用するなど準備等がスムーズではなかった。今回の講義の内容で、どのような準備と講義内容でいけばよいのかが明らかになった。これを生かし、来年度は資料作成をスムーズに進め、講師依頼者への負担軽減に努めるなどの工夫が必要である。

(2) 宮崎市立木花中学校 2年生対象の思春期教育見学

担当 “か母ちゃっ子くらぶ”

助産師 森 伴子他

引率 小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子

① 概要および所見

“か母ちゃっ子くらぶ”が行っている中学生対象の思春期性教育に参加した。また、学校長からは木花中学の概要と中学教育についての話しがあった。

性教育は、思春期の心身の特徴については手作り教材を活用し、中学生への

呼びかけ等を行いながら生徒を参加させ、笑いとりリラックスした中で進められた。



▲森助産師による思春期教育



▲熱心に講義を見学している研修員

研修員は、工夫された内容と教材に、自国での性教育実施にむけてのアイデアを得ていた。また、終了後のメンバーとの意見交換でその思いを深めていた。研修員の1人は実際の教育現場のビデオを上司に見せたいとの希望があった。講師の好意で、ビデオが提供された。

② 研修員の感想やコメント

とても良い性教育方法であった。自国ではない方法であるが、ぜひ実施できるように働きかけたい。

③ 課題

木花中学校での性教育現場への研修員参加に関して、担当者が事前に校長や養護教諭への交渉をしてくれていたのも、とてもスムーズに進行した。

この教育プログラムは、各中学校の年間の学習予定に組み込まれて開講される。来年以降の研修期間中に開講されるかについて確証がない。また、開講時期の決定についても学校側の状況により遅くなり、研修日程に組み込めない場合も考えられる。“か母ちゃっ子くらぶ”の担当者と協力して継続する方法をみつけていく必要がある。

8) 7月6日

(1) パパママ教室 宮崎市保健センター

担当 宮崎市健康増進課

連絡責任者 主幹 入船裕子

引率 地域・精神看護学講座

助教 蒲原真澄

① 概要および所見

親になるための出産準備教育の一つとして、カップルを対象としたパパママ教室に参加した。妊娠中の生活の講義、乳房の管理、歯科健診やブラッシング指導の講義と個別相談が行われた。研修員は個別相談時に入らせてもらい、相談内容についても学んだ。

② 研修員の感想やコメント

実際の活動の見学、特に乳房の観察等は勉強になった。しかし、講義形式のものが多く、日本語での説明であったため、どのような内容を行っているのか理解できなかった。活動の概要説明があれば、あとは活動の一部見学のみでよかったように思う。

③ 課題

2 時間半のプログラムの最初から最後まで見学あった。講義の見学という形式になると通訳担当の方も、対象者への配慮もあり、通訳の音量を落とす必要がある。講義を聴きながらすべての内容を通訳するにも無理がある。また、内容も妊娠中の注意事項等一般的な知識であるた

め、専門家である研修員すべてを通訳する必要もない。出産準備教育のねらい等を説明しながら一部内容に参加するなどの工夫が必要であった。

実際の講義対象者に迷惑をかけないように、どのように効率的に見学をさせてもらうかについては、今後主催者等と話し合い検討する必要がある。

(2) 性感染症と母子感染

担当 泌尿器科学教室 講師 濱砂良一

① 概要および所見

性感染症の定義や種類、日本や宮崎の性感染症の現状とその対策についての講義であった。

研修員は、重要ポイントをまとめた資料と英語での講義で日本や宮崎の性感染症の動向と対応について学びを深めていた。

② 研修員の感想やコメント

重要ポイントをまとめてあり、とても有意義な講義であった。

③ 課題

講義の内容や方法に関して問題はない。

講義スケジュールに関して、外部での見学後の講義であったため、時間調整等に難があった。移動のあるスケジュールの場合、移動時間と昼食休憩についての考慮が必要である。また、講師に時間変更の連絡がうまくいかず、迷惑をかけた。通常の講義時間と違う開始の場合、講師と連絡を行い、時間確認を十分行う必要がある。

(3) 学生との意見交換

担当 社会医学講座 英語分野

教授 玉田吉行、准教授 横山彰三

医学部看護学科 ENP 学生

① 概要および所見

ENP 学生が主体となり、研修員との交流を行った。学生は3年生 ENP と2年生で ENP に関心のある学生が参加した。学生は折り紙の折り方の英語資料を作成し、お菓子等を準備していた。研修員は、学生から英語で説明を受けながらリラックスした状態で、学生との交流を行っていた。



▲学生の説明により折り紙を作成

上段 アフガニスタン研修員

下段 ヨルダン研修員

② 研修員の感想やコメント

交流としてよかった。

③ 課題

研修員1人に、学生が3~5名ほど担当して交流を行っていた。折り紙という日本

の文化を紹介しながらの手法は、導入としてはよいと思う。しかし、1人の研修員に対応する学生が多いと会話しない学生もいた。また、折り紙に熱中すると会話にならない場面もでてきた。学生人数が減少すると、残っている学生は英語での発言がみられた。出来る限り学生が生の英語を話すための交流の場でもあるので、進め方について工夫が必要である。

9) 7月9日

(1) 日本の看護教育と活動

担当 基礎看護学講座

教授 東サトエ

(2) 日本の看護継続教育

担当 成人・老年看護学講座

教授 土屋八千代

① 概要および所見

日本の看護教育と活動は、看護教育の歴史的背景から法律、カリキュラムの概要等の看護教育の基盤となる考え方等についての講義であった。

日本の看護継続教育は、継続教育の基本的考え方からその具体的方法についての講義であった。

研修員は日本の看護教育や継続教育について学んでいた。

② 研修員の感想やコメント

資料等はまとめられており、理解しやすかった。

③ 課題

今回医師が3名、助産師1名という構成で看護職の参加者が少なかった。また、看護教育はそれぞれの国で教育内容等が違う点を考えると、少し看護の教育システムについて説明が多すぎたようであった。研修参加者の構成によって内容をもう少し簡潔にしてもよかったようである。

研修員のニーズとして、術後や処置後の感染予防を初めとした院内感染予防対

策、器具の消毒や取扱い、環境整備、手洗い等に強く興味を持っていた。研修員のニーズや職業を考慮し、講義担当者と相談しながら看護教育として重点的に講義する内容等の検討していく必要がある。

(3) 宮崎大学医学部附属病院

担当 宮崎大学医学部附属病院

看護部 副看護部長 向井ふさ子

看護師長 小田浩美(5階西病棟)

引率 看護学科 学科長 草場ヒフミ

① 概要および所見

宮崎大学医学部附属病院の概要と、看護部の組織、看護師の卒後教育についての講義と5階内科病棟の見学を行った。

研修員は、日本の病院の構造やシステムを学んでいた。

② 研修員の感想やコメント

最初の説明時に、PPTが日本語であったので、英語で作成して欲しかった。病院見学はとてもよかった。

③ 課題

午後の遅い時間帯は、研修員自身疲労度が増してきている。それに加えて、日本語の資料を見ながら日本語での説明が長くなると研修員自身集中力を持続させることが難しくなる。午後の遅い時間帯でのプログラムでは、短時間で要点を説明し、研修員の集中力を持続させるための工夫が必要である。

10) 7月10日

(1) 講義 児童虐待

担当 宮崎県立看護大学

教授 花野典子

① 概要および所見

子どもの虐待の概要と現状とその支援についての講義であった。児童虐待について分りやすく講義されていた。また、ピ

デオを使用し親と子の絆等が理解できやすいように工夫されていた。

研修員は、日本の児童虐待の背景や現状、発見の方法、その対応等について学んでいた。

② 研修員の感想やコメント

新しい情報を得ることができた。また、子どものケアについても学ぶことが出来た。

③ 課題

今回は特になし。

(2) 講義 開業助産師と助産所の役割

担当 小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子、講師 水畑喜代子

助教 小嶋理恵子

① 概要および所見

助産師の業務の法律的規定と、その中での開業助産師の活動や業務についての講義であった。

研修員は助産所に行く前に、日本の助産師の活動の多様性について学んだ。

② 研修員の感想やコメント

開業助産所について、多少理解できた。

③ 課題

助産所見学の前に、開業助産師の役割や活動について説明することは意義がある。しかし、全体的な内容からすると、「女性の生涯の健康支援」とだぶる内容もあった。プログラムのスリム化を考慮する場合、プログラムの構成を工夫することで、なくすことが可能な内容である。

(3) 訪問・見学 くすの木保育園

担当 くすの木保育園職員

引率 小児・母性(助産専攻)看護学講座

准教授 野間口千香穂

① 概要および所見

宮崎大学の職員の要望からできあがった子育て支援の一環としての保育園を見学した。

研修員は、町内にある他の保育施設の現状や利用状況等をあわせて保育園を視察した。また、子どもに触れ合い、日本の子どもの状況についても理解を深めていた。

② 研修員の感想やコメント

日本の保育園の現状について学んだ。

③ 課題

子どもの保育現場の見学から開始となったため、質問しながらの視察となった。最初に少し説明と質疑応答時間を設定してから見学に入った方がスムーズであった。

11) 7月11日

見学 上田助産院

(1) 助産院の健診とケア

(2) 子育て支援活動

担当 上田助産院 院長 上田のぶ子他

引率 小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子

① 概要および所見

助産院の施設見学、およびそこで行われている活動やケアについて見学、参加した。出産後で入院している褥婦のケア見学や褥婦から助産院を選んだ理由やケアの感想についてもインタビューした。実際の妊婦健診や母乳のケア見学も行った。1歳になるまでの子育て支援活動“母子のつどい”を見学し、参加している母親達から話を聞いた。

研修員は、助産院での多彩な活動と細やかで、高度なケアについて学び、深く感激していた。日本の高度な助産師活動に、自国での新たな助産師の活動のヒントを得ていた。



▲上田院長とのディスカッション

② 研修員の感想やコメント

研修員の国にはないシステムであり、ぜひ導入したいケアである。母と子をケアする上で素晴らしいシステムである。予想以上の高度な助産師の活動に感嘆した。

③ 課題

訪問、視察に関して問題はなかった。また、通訳者を 2 名としていたので、2 グループに分かれて見学等がスムーズに行えた。

“母子のつどい”への参加時、母子および研修員がうまくコミュニケーションとれるように話のきっかけを提供するなどの通訳者や引率者の働きが必要であった。

12) 7月12日

訪問・見学 県立都農高等学校 3 年生対象のピアエデュケーション

担当 宮崎大学医学部看護学科 3 年生
オブザーバー 地域・精神看護学講座
准教授 鶴田来美、助教 長谷川珠代、
助教 蒲原真澄、助手 塩満智子、
小児・母性(助産専攻)看護学講座
講師 水畑喜代子

① 概要および所見

宮崎大学看護学科 3 年生が講師となり、妊娠・出産のしくみや性感染症、避妊方法等について説明した。また、今妊娠した場合の人生の変化等を高校生と一緒に考えながら、人生設計を考慮したパートナーとの関係づくり等についても高校生とディスカッションしながら行った。

研修員は、高校生対象の実際の性教育現場を見学訪問できたことで、自国での活用について考えるヒントになっていた。

② 研修員の感想やコメント

若い世代への性教育として活用できるものである。性について身体・精神とも関心やニーズのある高校生に、このような教育をすることは重要である。性教育を受けることにより、性感染症や望まない妊娠の予防につながる。

③ 課題

実際の高校生への性教育を見学できたことで、自国での活動の参考になっていた。研修員の評価も高い内容であった。

今回は、研修期間中に高校から宮崎大学に、ピアエデュケーションの依頼があったため、実現したプログラムである。今後、

高校側からこのような依頼が宮崎大学に継続してあるのか。また、研修期間中に実施されるのかが不明である。今後もこのプログラムを研修に組み込めるかは、高校側や看護学科との検討が必要である。

13) 7月13日

(1) 訪問・見学 宮崎県中央保健センター 女性相談事業

(2) 自助グループ活動(ひよこの会:ダウン症親の会)

担当 宮崎県中央保健センター
健康増進課 課長 塩満ちほ他
“ひよこの会”会長他
引率 地域・精神看護学講座
教授 尾上佳代子

① 概要および所見

宮崎県中央保健センターを訪問し、そこで実施されている女性相談事業の内容やダウン症親の会である“ひよこの会”立ち上げや運営に関する支援活動について講義を受けた。また、保健センター内の見学も行った。

“ひよこの会”では、グループメンバーが、ダウン症児を育てる上でサービスや支援・情報の不足等の困難を抱えながら、子どもを育てていった経緯と自分達で苦勞を乗り越えるために会を発足した話し等を伺った。会の実際の活動方法や運営当についても学んだ。最後には、親子と触れ合い、友好を深めた。

研修員は、大変な状況の中で“ひよこの会”を発足させた経緯や活動に涙し、その活動のすばらしさに感動していた。“ひよこの会”の活動事体は研修員の国々では優先度の高くない事業であったが、今後の方針やプログラムのヒントとしては役立っていた。

② 研修員の感想やコメント

“ひよこの会”についてはすばらしい内容である。しかし、自国の現状を考えると優先度の高い事業にはならない。

保健センターで日本語の資料を沢山いただいたが、日本語では持ち帰っても活用できないので、最小必要限度にして欲しい。

③ 課題

“ひよこの会”は毎月の第2金曜日に実施されている。今後の研修日程を組む時に開催時期を考慮する必要がある。

研修員にとって、保健センターの役割が研修員の国々と違っており、多少の混乱があった。実際のセンター見学時に再度、日本の保健福祉を担う場所としての保健センターの活動について話しする必要がある。

(3) 訪問・見学 県立宮崎病院 女性専用外来

担当 県立宮崎病院 院長 豊田清一、
看護部長 岩切イツ子、医師 秦 博子
引率 小児・母性(助産専攻)看護学講座
教授 兵頭慶子
基礎看護学講座 助教 加瀬田暢子

① 概要および所見

生涯を通じた女性の健康の保持増進を図る「女性の健康支援事業」の一つとして女性特有の症状や悩み、疾病を考慮した上で、女性の心と身体の特徴を踏まえた総合医療を展開する女性専用外来を訪問した。最初に院長から設立の経緯と診察室の案内を受けた。次に外来を担当している秦医師から、外来の特徴等についての説明があった。また、研修員の国々の現状を聞きながら、女性に対する医療や配慮について意見交換を行った。

研修員は、決め細やかな女性への配慮を行った医療やケアの必要性について学びを深めていた。また秦医師が、それ

それぞれの国の資料をもとに話しを進め、研修員の国々の現状や課題について英語で意見交換を行ってくださったので、研修員は自分達の考えをまとめる機会ともなった。

② 研修員の感想やコメント

新しい情報を取り入れることができた。

③ 課題

秦医師による意見交換により、女性専用外来の訪問意義が高まった。今後も今回のように研修員の方々と話し合うことのできる担当医師の存在が重要となる。

14) 7月17日

訪問・見学 池田助産院

担当 院長 池田利江他

引率 小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子

① 概要および所見

助産院の施設見学、およびそで行われている活動やケアについて見学、参加した。診察に来られた妊婦より、助産院での出産を決定した理由やそのサービスのよさについての話しを伺った。また、個人を対象とした出産準備教育にも参加した。

研修員は、再度助産院での活動と細やかなケアについて学びを深めた。また水中出産を行うプールや分娩椅子等について実際に見学することができた。



▲分娩室と水中出産用プール(奥)や分娩椅子
新生児用体重計等

② 研修員の感想やコメント

助産院についての学びを深めることが出来た。

③ 課題

今回、鶴戸神宮や飫肥を訪問し、日本の出産育児文化や歴史を学ぶ内容もあったため、日南に1泊する日程となった。研修員はモスリムで食べ物のタブーが多いことと、日本の甘辛い味付けの料理に馴染めないことから外食が困難な状況であった。そのため、研修員は2日分のお弁当を持参しての研修となった。暑い中で、2日分のお弁当持参では食中毒の危険が高い。研修員の健康管理を考えると、日程については配慮する必要がある。



▲池田院長と共に活動を行っている助産師(娘)とのディスカッション

15) 7月18日

(1) 講義 ピンクリボン活動と女性のセルフケア

担当 宮崎県健康増進課

主査 永野秀子

① 概要および所見

宮崎県の乳癌の現状からピンクリボン活動が始まった経緯とその活動状況と女性のセルフケアの向上の一つとして、宮崎に多い人工死産の低減にむけた活動としての健やか妊娠推進事業についての講義であった。

研修員は、予防活動の必要性や大切さについて学んでいた。

② 研修員の感想やコメント

大変すばらしいアイデアである。この内容を産前・産後の健診に加えるのも良いことだと思った。早期に乳癌を発見するためのアプローチとして勉強になった。また、すばらしい講義であった。

③ 課題

内容的に洗練されており、問題はなかった。午後からのプログラムの関係で県庁での講義場所の提供や講義時間の調整、昼食場所の提供等細やかな配慮をしていただいた。

(2) 訪問・見学 3歳児健康診査 宮崎市保健センター

担当 宮崎市健康増進課

連絡責任者 主幹 入船裕子

引率 地域・精神看護学講座

助教 蒲原真澄

① 概要および所見

宮崎市で行われている3歳児健康診査の現場を訪問しその活動を見学した。また、JICA から研修視察の職員の来訪があり、研修監理員と2名で通訳を担当していただき個別的な健康診査内容の視察も2名1組で行うことが出来た。健康診査の意義やその役割等についての説明も受けた。

研修員は、どのような方法や内容で児の健康診査活動を行うのかを学ぶことが出来た。

② 研修員の感想やコメント

子どもの健康管理や異常の早期発見するための良いシステムである。また、母親の子育て支援にもつながる。わが国でこのような健診活動を行うためには場所の確保と職員の確保が大変であると思った。

③ 課題

健診のプログラム事体が長時間である。全プログラムを見学するには同じ内容の繰り返しとなるので、どの段階で視察を終了すると効果的になるかを検討する必要がある。また、今回大規模な健診であったため研修員の1人は、自国での開催について心配しているコメントがあった。もう少し小規模な健診活動の場であると、実施可能な内容であると思えたのではないかと。

県や市、外部施設の運営するプログラムに共通する課題であるが、研修時期にこのようなプログラムがあるかは、今後の課題である。しかし、幸いなことに子どもの健康診査活動に関しては1歳6ヶ月健康診査もあるので、どちらかで調整可能ではある。

今回、研修員の到着時間が、引率の地域看護学教員より早くなってしまった。研修員は2回目の場所で、職員に場所を聞くなどの対応で問題なく活動視察を開始できた。しかし、引率教員は、会えなかったため、研修員が遅れたと思い心配している場面があった。このような事体に備えて、研修監理員と引率者との連絡方法の確認が必要であった。

16) 7月19日

(1) 訪問・講義・見学 つぼみの寮(乳児院)

担当 施設長 山下志津子他

引率 小児・母性(助産専攻)看護学講座

講師 永瀬つや子

① 概要および所見

社会福祉法人カリタスの園が運営する乳児院を訪問した。つぼみの寮は様々な事情で家庭で養育できない2歳までの乳幼児を、24時間体制でケアを提供する施設である。つぼみの寮の設立経緯と施設の活動の概要や入所者の現状について

の講義の後に、実際の施設とそのケアを見学した。

研修員は、乳児院の施設の工夫や行われているケアのすばらしさに感動していた。また、親から離れて暮らしている子どもたちの苦しさや寂しさの心情を思いやるとともに、子ども達に精一杯のケアを提供している職員の活動に感動していた。中には涙のために言葉がでない研修員もいた。

② 研修員の感想やコメント

とてもすばらしい活動である。つぼみの寮の職員の方々は子ども達に対して責任感をもってすばらしいケアを提供している。このような活動は広く世間に知らせるべきである。

③ 課題

訪問視察に対しては、園の方々の多大な協力で問題なく進化した。

講義に関しては、大きな部屋でおこなわれたため、通訳担当者の声が吸収され大きな声をださないと聞こえにくい状況であった。もう少し小さな部屋にするか、机と椅子の配置をもう少し近づけるなど工夫を考える必要がある。講義時間が1時間30分ほどであった。研修員は、講義終了近くになると日本語説明時に集中力の低下がみられた。配布資料は、施設と活動について非常にまとまっていたので、時間配分について検討する必要がある。

(2) 訪問・見学 清武町子育て支援センター

担当 子育て支援センター長他

引率 地域・精神看護学講座 助教
長谷川珠代、助手 塩満智子

① 概要および所見

子育て中の家族の社会的孤立を防ぎ、在宅親子の交流の場を提供し、地域の子育て支援の場として、清武町と地域住民が協力して活動する子育て支援センター

を訪問見学した。

研修員は、子育て支援活動の様々な方法について理解を深めていた。

② 研修員の感想やコメント

日本の様々な子育て支援活動を学ぶことが出来た。

③ 課題

訪問見学活動に関して問題はなかった。しかし、プログラム上、午前中に市内の施設訪問後に、再度外部施設の訪問を組み込んでいたため、研修員のお昼休憩を十分確保することが出来なかった。また、移動と休憩を考え、施設の訪問時間を変更していたが、訪問施設に時間がうまく伝わっていなかったため、施設利用の親子やスタッフの方々に迷惑をかけてしまった。昼食時間を挟んで外部施設の訪問を計画する場合、休憩場所や時間等の配慮が必要である。

(3) 講義 女性の生涯を通しての健康支援

担当 宮崎県立看護大学

教授 菅沼ひろ子

① 概要および所見

女性の生涯を通しての健康支援について、特に助産師としてのアプローチについてリプロダクティブヘルス/ライツの視点や日本の男女観等の問題提起をしながら、研修員とともにディスカッションしながら講義を行った。また、研修の目的やポイントを包括的に示す内容であった。

研修員は、研修員の国々と共通した問題や女性の健康支援を行う上での大切なポイントについて学んでいった。

② 研修員の感想やコメント

非常にわかりやすい内容であった。女性支援の大切さを学べた。

③ 課題

今回は、講師の都合や準備上で、講義が研修最終日近くなった。内容的には、研修の最初の段階で組み込むことで、今回の研修の意義やねらいを簡潔に説明できる内容であった。最初に組み入れることで、削除できるプログラム等もあった。今後は研修の最初の段階で組み込めるようにする必要がある。しかし、外部講師への依頼ということで、スケジュール調整が必要である。

17) 7月20日

(1) 講義 日本におけるドメスティック・バイオレンス(DV)

担当 地域・精神看護学講座

助教 村方多鶴子

① 概要および所見

日本におけるドメスティック・バイオレンス(DV)の定義や特徴、実態とその影響、医療者としても実際の対応についての講義であった。特に DV 被害者への医療者への役割については、具体的は対応が提示してあった。

研修員は、DVについての知識を深め、DVの対応について再認識していた。研修員自身 DV の基本的な知識は持っていたようであったが、DV 被害者への対応については、被害者側を攻めるような認識もっている研修員もいた。

② 研修員の感想やコメント

人々は DV の存在や現状を知り、人々の人権擁護という立場で DV 予防や対応について検討し活動していく必要がある。

③ 課題

DV 被害者への対応について、実際に行う場合各人の持っている価値観等に左右され、「聞いてはならない質問」をしまったり、「DV が疑われる所見」を見逃したりしてしまう場合がある。講義の内容を

少し検討し、簡単な演習等を取り入れることが出来るとより実際的な DV 対策につながるのではないかと。

(2) 講義 NPO による DV サポート活動

担当 NPO 法人ハートスペース M

代表理事 財津三千代他

① 概要および所見

DV の歴史的背景と DV 被害者への法的支援や民間支援等についての講義であった。そして、DV の根絶に向けての働きの一つとしてデート DV の概要と予防法について、DV 理解度のチェックシートやデート DV 被害者の詩、DV 加害者の暴力をふるう理由の証言等を提示してわかりやすく示していた。また、DV のサバイバー(DV 被害者で、その被害から立ち直った人)の方が参加してくださり、自分の DV 被害の現状とその時の心身の状況、それを乗り越えるための支援状況等についての話しもあった。

研修員は、デート DV のチェックリストの内容を確認しながら、改めて日常に潜んでいる DV についての理解を深めていた。また、DV サバイバーの方の話等を通し、DV 被害者の心身の状況、特にパワーレスになる状態と DV 被害を乗り越えるための困難さについて実感していた。

② 研修員の感想やコメント

自国にも DV を減少させるためのシステムづくりや女性支援の活動が必要である。デート DV のチェックシートは、青少年のスクリーニングとして活用できる。

③ 課題

NPO 法人による DV サポートとして講義を依頼していたが、実際の会の現状やサポート状況についてほとんどされていなかった。実際の会の活動についての話しもあれば、DV 支援のための活動を行う上での参考になるのではないかと。文化の違い

いはあるが、デートDVのチェックシートを
実際に研修員の方々に行ってもらい、普
段DVと思わない点がDVになる場合もあ
るという点を一緒に考える助けになるの
ではないか。

18) 7月23日

(1) 訪問・見学 宮崎県看護協会

担当 宮崎県看護協会

会長 串間秀子他

引率 看護学科 学科長 草場ヒフミ

① 概要および所見

宮崎県看護協会に訪問し、概要とその
活動、会員の構成、役割についての話し
を伺った。施設見学も行った。

② 研修員の感想やコメント

看護協会の役割について理解でき、良
かった。

③ 課題

適切にまとめられた内容で問題はな
かった。

(2) 訪問・見学・演習 いきいき女性セミナー

宮崎市保健センター

担当 宮崎市健康増進課

連絡責任者 主幹 入船裕子

引率 地域・精神看護学講座

助教 蒲原真澄

① 概要および所見

女性特有の体や心の変化について学
習し、今後いきいきとした生活を送るた
めのヒントを得ることを目的とし、65歳以下
の女性を対象とした健康教育に参加し
た。

研修員は、健康維持のための食事指
導や乳癌の自己検診法の講義と家庭で
出来る簡単なエクササイズに一般の受講
者とともに参加した。女性の健康維持の
ために活用できるプログラムであることを
実感していた。

② 研修員の感想やコメント

このようなプログラムを今後自国でつく
りあげたい。更年期前後の女性の問題解
決に役立つプログラムである。エクササ
イズは良かった。

③ 課題

実際のプログラムに参加することで、ど
のようなアプローチがあり、運営状況や内
容について学ぶことができた。しかし、健
康教育等のプログラムの見学や参加に共
通する課題であるが、講義形式のプログ
ラムの場合、1時間以上を超える日本語
での講義に研修員が参加することにつ
いては検討が必要である。特に講義の内
容が、基本的な保健医療の知識伝達型
の場合、講義内容は研修員にとって知っ
ている知識も多いので研修監理員が内
容を全部通訳する必要がない。必要な
のはどのような目的やねらいをもって、
講義を構成し何を伝えるかの要点とな
る。また、この点を理解していないと
研修員が帰国して同様なプログラムを
立ち上げる時の参考とはならない。

プログラム受講者の迷惑にならないよ
う配慮しながら長時間の講義形式の内
容に関しては、プログラムのねらいや構
成を説明しながら、どのプログラムに
実際に参加するなどについての細かな
打合せを主催者側と話し合う必要が
ある。

19) 7月24日

ファイナルレポート作成

① 概要および所見

研修員は今回の研修期間で学んだこと
に関して、以下の内容についてレポート
を作成し、ファイナルレポートは発表会
にむけて準備を行った。

研修員は、レポート作成日までに内
容をまとめ、総合教育研究棟の情報処
理演習室にてワードでレポートを作成
した。

- ② レポート内容(Annex V 参照)
- a 研修カリキュラム、及びスケジュール全体について
 - b 研修科目(内容)で良かった点、及びその理由について
 - c 当該コースをより良くするための要望・意見、及びその理由について
 - d 帰国後、自国において活用出来る(役立つ)と思われる科目について
 - e 今回の研修の中で活用できる科目の内、1つとりあげて活用出来る具体的内容・活用方法・活用しようとする場合の問題点及び、その解決方法等をレポートする
[具体案(アクションプラン)]
 - 活用出来る具体的内容:
 - 活用方法:
 - 活用しようとする場合の問題点:
 - その解決方法:
 - f その他、意見・コメント等

③ 課題

今回第1回目の研修であり、ファイナルレポートの具体的内容について、研修終了前の1週間前に提示となってしまった。研修の最終的な成果を研修員に具体的に示す上でも、研修最初にレポート内容を提示する必要があった。

今回研修員のために英語版のワードがインストールされているPCをJICAから借りていたが、ファイナルレポート作成時に確認すると画面が写らない等の不具合が生じた。今回の研修員は1名を除き、PC操作になれており、日本語版ワードでも対応できた。また、レポート作成時間に情報処理演習室も講義が無く自由に使用できた。日本語版ソフトのインストールされているPCについては、情報処理演習室や図書館を利用することで十分対応は可能である。今後JICAから英語ソフトのインス

トールされているPCの貸与については、JICA側と相談して方針を決定したい。

20) 7月25日

(1) ファイナルレポート発表

司会 小児・母性(助産専攻)看護学講座
講師 永瀬つや子

① 概要および所見

研修員が、各自が作成したファイナルレポートをもとに研修で学んだ点や改善点、自国での活用について発表した。発表時間は10分、質疑応答が5分であった。研修員は研修についての評価・意見・コメントおよびアクションプランを発表した。

出席者として看護学科教職員、英語科教員、看護学科大学院学生、学部学生の参加があった。出席者との質疑応答を行いながら意見交換を行った。

研修員は研修プログラムにおいて、午前中に講義、午後に訪問見学の希望や通訳しながらの講義なので、日本語の説明が続くと理解や集中力に影響する等のコメントを述べていた。また、良いプログラムとして助産師の活動や助産所の訪問、ピアカウンセリング、宮崎の周産期システム、性感染症、ピンクリボン活動を挙げている。

希望として、英語による講義の増加、研修プログラムのスリム化、インターネットやe-mail利用の利便性の向上、院内感染症対策があった。

しかしながら、全体的には適切な内容のプログラムであり、ピアカウンセリング、助産所活動、周産期システムづくり、性教育、ピンクリボン活動、住民ボランティアによる支援等は帰国後に役に立つ内容であったとのコメントを得た。

② アクションプラン

研修員は以下のようなアクションプランを提示した。

- a 新生児救急蘇生法
- b 周産期モニタリングシステム
- c ピアエデュケーションとピアカウンセリングによる思春期性教育
- d ピンクリボン活動
- e 妊婦健診
- f 助産所活動

③ 課題

ファイナルレポートの配布は発表当日であった。出席が前日までにわかっている教員や学生に対して事前に渡すことができているならば、より質問しやすかったのではないか。

(2) 評価会

司会 JICA 九州国際研修センター

研修担当者 岡田未来

出席者 国際連携センター係長 甲斐栄一

看護学科 学科長 草場ヒフミ

教授 兵頭慶子、講師 永瀬つや子

助教 小嶋理恵子

① 概要および所見



▲JICA スタッフおよび宮崎大学関係者を交えての評価会

研修員とJICAの研修責任者、学科長、看護学科教員、国際連携センターの関係者を交えて評価会を行った。進行は、事前にJICA側の評価項目に研修員が答え、その中で確認すべき事項についての質疑応答から始まり、今後の研修プログラム向上のための意見聴取となった。

研修員は、最初に宿泊施設のロケーションの悪さや施設に電話設備が無く通信手段の確保の困難さ、交通の便の悪さについて指摘した。ファイナルレポートで述べた研修プログラムの改善についての要望があった。特に講義は午前中に設置すること、日本独特の看護教育システム等については、簡潔にして欲しいこと、同じようなプログラム内容については考慮して欲しいとの意見があった。

また、国で活用できる指導教材づくりや具体的な分娩期ケア、院内感染予防方法等プログラムに加えて欲しい内容についても多数意見がでた。

これらの意見をもとに来年度のプログラムに役立ていきたい。

② 具体的なプログラムへの希望

- a 手術室の感染対策や滅菌物の作製方法
- b 院内感染予防対策
- c 分娩期医療やケアの見学
- d リプロダクティブヘルス／ライツに関する活動
- e 日本の母子保健向上の歴史
- f 男女平等に向けての活動
- g 思春期性教育として、小学校から高校生にかけての年代別教育方法
- h 性教育のための教材作成

③ 課題

研修員からプログラム改善にむけて具体的な意見が多数述べられ、来年度のプログラム作成に役立つ情報を得ることができた。

限られた人材と時間において、どの程度要望にこたえられるプログラムになるかは大きな課題である。できる限り研修員のニーズに応えられるよう、関連機関と連絡・調整・協力の上実施していきたい。

(3) 閉講式 司会 研修監理員 許 珠美

① 概要および所見

研修員の国々の国旗と日本、JICA、宮崎大学の旗で飾られた室内で、②のような予定で閉講式が実施された。

国際連携センター位田副センター長、池ノ上地域連携・国際交流委員長を始め、大学の教員や職員、学生が多数出席した。また、宮崎日日新聞社の取材があった。

研修員は民族衣装をまとい、爽やかな笑顔で閉講式に臨んでいた。



▲許研修監督員司会による閉講式

② 閉講式式次第

a JICA 九州国際センター所長 笠原氏による挨拶



b 国際連携センター 副センター長 位田教授による祝辞



c 研修修了書の授与



d 研修員代表 ヨルダン(助産師)による挨拶



- e 看護学科学科長 草場教授による
終わりの挨拶



- f 記念撮影



▲研修員と閉講式参加者との記念撮影

3. その他のプログラム

1) 6月26日

(1) 学長・副学長表敬訪問

概要および所見

住吉学長、菅沼副学長へ表敬訪問を行った。研修員より、国の事情や研修への心構えを伺っていた。また、長期間に

わたる研修であるので、健康に気をつけて学びを深めて欲しいとの話があった。宮崎大学の英語版の大学案内と記念品の贈呈があった。



▲住吉学長、菅沼副学長との面談

研修員は、研修へのお礼と今後の意欲について学長、副学長へ述べ、研修への意欲を高めていた。

(2) 医学部長表敬訪問

概要および所見

河南医学部長へ表敬訪問を行った。医学部長から、日本で行われていることがすべて正しいわけではないので、各研修員の国の文化や社会の現状を踏まえて多くのことを学んで欲しいとの研修の心構えについての話があった。

研修員は、これからの研修における姿勢のヒントを得ていた。



▲河南医学部長との面談

(3) 宮崎県庁国際政策課表敬訪問

概要および所見

国際政策課 課長 田原氏および関連職員との表敬訪問を行った。各研修員の国のことや日本に来るまでの交通手段等の話題から入り、宮崎県の特徴等について話しがあった。また、日本で学びたいこと等についての質問があった。

その後、県庁内を視察し、全国の都道府県庁で4番目に古い建物であることや、階段部分の化石の説明を受けていた。

研修員は最初緊張した趣であったが、職員と話しでリラックスした雰囲気になった。また建物の古さと立派さ驚き、南国風の庭や多種類の木々に感激していた。



▲国際政策課スタッフとの面談



▲化石の説明

(4) 県庁福祉保健部表敬訪問

概要および所見

福祉保健部 部長 宮本氏および宮脇次長、健康増進課主要職員との表敬訪問

を行った。宮崎県の保健事情について簡単に説明があった。また、ピンクリボン活動のバッジや英語版の宮崎の地図と観光案内のプレゼントがあった。



▲福祉保健部スタッフとの面談

研修員は、職員達の心温まる歓迎と心使いに始終リラックスした状態であった。特に英語版での宮崎案内が入手できたことで、宮崎の知るための助けになった。



▲福祉保健部スタッフとの記念撮影

(5) ウェルカムパーティー

概要および所見

総合教育研究棟6階のリフレッシュコーナーで研修員歓迎のためのパーティを開催した。参加者は菅沼副学長、河南医学部長を始め、英語科教員、看護学科教員等多数の教職員の参加があった。



▲菅沼副学長により開始の挨拶



▲池ノ上地域連携・国際交流委員長よりの終わりの挨拶

菅沼副学長に開始の挨拶をしていただき、各研修員の自己紹介を行った。研修員と教職員はお茶とお菓子をつまみながら交流を深めていた。6階を訪れた学生達の飛び入り参加もあり、和やかな雰囲気で行進した。池ノ上地域連携・国際交流委員長が終わりの挨拶をしてくださった。

(6) 初日の課題・その他

関連機関への表敬訪問に関しては、研修を始めるに当たっての心構えや施設や宮崎県の概要を知る上では有意義であった。しかし、清武キャンパス、木花キャンパス、県庁、そして再び清武キャンパスへ戻る日程であったため、忙しい日程となっていた。研修員は日本に到着して2~4日、宮崎へは前日来たばかりであった。1ヶ月間宮崎で滞在するための準備等が十分できていない状態と梅雨のむし暑さと時差も重なり体調も万全とはいえなかった。県庁訪問後に生活に必要な物品等の準備できるための時間を設けことや移動を最小限度にするなどの配慮が必要であった。



情報処理演習室のPCが利用できるようにID番号修得等の準備を整えていたので、PC利用に関してはスムーズであった。だが、PCには日本語OSのため日本語表示のため、利用するためには機能説明等が必要であり、活用できるまでに時間がかかった。今回の場合、宿舎に電話機能がないために、e-mailでの通信手段が重要であった。PC操作を行う時間やジョブレポートの修正や調整等の時間確保も必要であった。



▲看護学科および関連学科教員との交流

2) 7月8日

宮崎大学医学部附属病院での七夕お茶会
概要および所見

日曜日に、医学部茶道部主催のお茶会があり、希望者が参加した。研修員2名は参加するために大学に来たが、間違えて木花キャンパスに行ってしまったりして十分な参加にはならなかった。しかし日本的な行事があれば今後も紹介することは大切である。

3) 7月16日

宮崎の出産・育児文化と歴史
概要および所見

宮崎の出産・育児文化と歴史を学ぶため鶴戸神宮と飫肥を訪問した。途中青島海岸の鬼の洗濯岩を見学しながら鶴戸神社に向かった。鶴戸神社では海岸線につくられた神社のすばらしさやお乳岩の伝説、安産祈願、運玉について興味を示していた。飫肥ではお城や庭、博物館の調度品や装飾品に感動していた。途中観光客親子と交流するなどの場面があった。



▲鶴戸神社での研修員

4) 7月25日

Farewell party

概要および所見

閉講式終了後に、研修員と閉講式参加者を交えてお別れパーティを行った。研修員がお土産として持参した装飾品や小物の

の展示などもあった。池ノ上地域連携・国際交流委員長による挨拶で始まった。研修員はお世話になった大学教職員と1ヶ月にわたる研修と宮崎滞在についての意見交換を行っていた。



▲池ノ上地域連携・国際交流委員長と語る研修員



▲研修関係者と語る研修員

最後に、草場学科長より終わりの挨拶後、研修員が一人一人言葉を述べて終了となった。研修員も教職員も別れを惜しむとともに、今後の活躍を祝いあった。



▲草場学科長による終わりの挨拶

4. 研修評価

研修の評価は、ファイナルレポートによる発表、評価会の他に毎日のプログラム項目に対しても大学で作成した評価表で、①研修目的に適していたか。②自国で活用できそうな内容であったか。③自分にとって有益な内容であったか。④資料や内容は、わかりやすかったか。⑤時間は適切であったか。という5項目について最低点を1点、最高点を5点とし5段階で評価した。

4-1. 各分野別の評価

1) 研修目的に適していたか

すべてのプログラムは、評価点が4.0点以上であった。特にピアエデュケーションとピアカウンセリング分野、助産所活動分野、助産師会活動分野、周産期医療システムと性感染症分野は、4.7以上の高得点であった。プログラム全体の平均評価も4.5点であり研修目的を十分満たした内容であったといえる。

2) 自国で活用できそうな内容であったか

得点の高い分野は、ピアエデュケーション3.9点、助産所活動分野3.8点、子育て支

援分野3.7点であった。プログラム全体の平均評価は3.4点であり、極端にできないと思う内容にはなっていない。研修員の国々とは違った保健医療システムや文化、経済状態の中で、最初の研修でこれだけの評価を得ることができたことは、研修員が新しいプログラム開発に役立った研修であることを示唆しているといえる。今後の課題としては、研修員の国々で活用できるための工夫やより研修員の国々に役立つようプログラム内容の見直しが必要である。

3) 自分にとって有益な内容であったか

得点の高い分野は、ピアエデュケーションとピアカウンセリング分野4.9点、女性の健康支援分野4.7点、助産師会活動分野4.6点であった。プログラム全体の平均評価は4.4点であり、ほぼ研修員の学習ニーズを満たした内容であったといえる。

4) 資料や内容は、わかりやすかったか

すべてのプログラムで評価点が4.0点以上であった。得点の高い分野はピアエデュケーションとピアカウンセリング分野4.9点、女性の健康支援分野4.9点、助産所活動分野4.8点、子育て支援分野4.8点であった。講師の方々は分りやすく資料を作成してくださったこと、JICA九州の翻訳サービスにより、ほぼすべての講義で英語の資料を提供できたことにより高評価を得られたのではないかと。研修員が評価会で日本語の資料をいただいても自国で活用できないとの意見があったので、今後もJICA九州と協力のもとで、必要な資料は英語翻訳して提供できるよう準備を整える必要がある。

5) 時間は適切であったか

すべてのプログラムで評価点が4.0点以上であり、ほぼ時間的に適切であったとい

える。しかし、研修員からのコメントで、時間配分が長いというコメントを記している者や講義時間が16時過ぎに設定され、集中力が続かないとの内容があり今後検討の必要な項目である。また、設問として時間の長さを尋ねているのか、時間帯に評価を受けたいのかがわからず、研修員は評価しにくかったことが考えられる。質問内容をはっきりさせる必要がある。

4-2. 全体評価

ファイナルレポート、評価会、毎日のプログラム評価の結果から、研修の目的は達成され、研修に対する期待をほとんど満たす内容であった。研修の講義場所や訪問場所、講師やコーディネーター、事務関係の関わりについても研修員のニーズを満足させるものであり、運営管理も適切であった。ピアエデュケーションとピアカウンセリングや開業助産師と助産所活動については、研修員達全員が新しい知識やアプローチを学べ、自国で活用できる内容であるとの評価を得ることができた。周産期医療システムと各医療機関との連携については、これからの周産期及び母子保健向上にとって有益な内容であった。また、研修員が非常に意欲的で、質問や意見の発表が活発にされたことで、各研修員と日本側講師との情報共有ともなり学習効果があがった。

反面、多くのことを学んで欲しいとのことで研修内容が盛りだくさんになり、時間的ゆとりがあまりないプログラムになってしまっていた。加えて、宿舎が交通の便の悪い所であり電話設備がなく生活の不便さがあったこと。全員モスリムで食に対してのタブーあり、自炊できる時間の確保等食住に関しての不便があった。研修終了時間が遅くなると生活面の困難さに直面し、研修に集中できない事体もあった。1ヶ月という

長期研修であることを考え、研修員の負担を減少させるプログラムづくりが必要であった。

全体的には第1回目の研修であり、研修員の内容に対する評価もほぼ4以上の評点を得られたことより研修員にとって満足できた研修であったといえる。

1) 研修内容について

(1) 有益だったプログラム

ピアエデュケーションとピアカウンセリング、助産所活動、宮崎県の周産期医療システム、助産師による性教育、乳癌予防活動、性感染症は有益であった。特にピアエデュケーションとピアカウンセリングについては、スタッフの患者や住民に対するケア提供場面やカウンセリングや、健康教育を行う上でも活用できる手法との意見があった。また性教育の手法として、各年齢の特徴や興味にあわせて、トピックスや手法を変えて実施していくことを見学でき、研修員が自国での性教育をアプローチする上でのヒントになり有益であった。

(2) 付け加えてほしいプログラム

日本の母子保健指標が改善していった歴史的背景、男女平等に向けての活動、手術室やIUD挿入等の手術や処置時の感染予防活動や院内感染予防のための方法、具体的な分娩時のケアや処置の見学などがあげられた。またイスラムの国々では小学生までは男女が同じ教室で学ぶが、中学生以上は別々の教室で勉強する。そこで男女対象の性教育のロールモデルとして、小学生対象の性教育の見学の希望があげられた。自国で活用できる性教育教材の作成についても付け加えて欲しいとの意見があった。

2) 時間配分

講義や見学の時間を1コマ2時間、1日3コマという配分で研修プログラムを組んでいたため、午後の終了時間が17時となってしまった。研修員は慣れない日本での生活に加え、梅雨のむし暑さのため16時以降は集中力低下がみられ研修能率が下がっていた。また研修員宿舎が交通の便の悪い所であったため移動に1時間以上かかることや研修員全員がモスリムで食のタブーのため自炊していたことより、夕食が終了するまでに20時頃になるなど時間的ゆとりがない状況であった。

また移動時間や昼食の場所に配慮のないプログラムもあり、研修員自身ゆっくり休憩を取る暇もなく移動する場合があった。1ヶ月の長期プログラムであるので、研修員の体調を考慮してもう少しゆとりのあるプログラムにする必要があった。研修員は基本的な保健医療の知識はあるので、もう少し講義を減らしたプログラムや研修員自身が調べたりやまとめたりする時間を設置する必要があった。

3) その他

- (1) 知識提供型講義の時、逐次通訳によって生じる「時間差」のため集中力を保つのが難しかった。
- (2) 活動見学時に、講義形式型の健康教育を長時間見学する場合、研修員の意欲の低下がみられた。
- (3) 参加型の講義や演習に対して研修員は活発に参加しており評価もよかった。
- (4) 研修員は、自国ですぐ実践できるプログラムも欲していた。自国で役に立つ教育計画や教材作成等のプログラムも組み込めると良かったのではないかと。
- (5) 自国で活用できそうな内容の評価が3前後であったり、ファイナルレポートでアクションプランを立案した時の問題点に、経

済面や資源や人材不足等をあげている研修員が多かった。研修で学んだことをどのようにすれば少しでも自国で応用可能なものにするかについて、検討する時間を設置することでより有意義な研修につながるのではないかと。

5. 今後の研修への提言

1) ゆとりのあるスケジュール日程

研修員は日本到着して数日で宮崎に来ている。日本と研修員の国々は5~6時間あり時差があり、その影響が残っている上に梅雨のむし暑さに体が慣れていない。また、宮崎では店舗や道路標識に英語表示が少なく、英語を話せる人も少ないため日本の生活に慣れるまでに時間を要する。1ヶ月にわたる長期日程であるため、研修員の体調や日本への適応を考慮しゆとりのある日程が必要である。加えて外部研修での移動は、天候により移動時間が左右される。食のタブーの影響でお弁当持参での研修であるため、外部研修の場合昼食場所の確保と移動時間の十分な確保も必要である。

研修員は家族や職場への連絡手段としてe-mailを大いに活用していた。定期的で安価な連絡方法として大学でe-mailを利用できるよう時間設定する配慮も必要である。

2) スケジュールの柔軟性

研修員は日本の保健医療システムについてほとんど知らない。また、自国のシステムや状況について知らせたいニーズも高い。これらを考慮して1週目はお互いの国のシステム理解や日本の保健医療政策についての疑問に答えるなど研修員のニーズに応じて調整する必要がある。また、看護職やヘルスワーカーを対象にプログラムしていても、研修員の語学状況に応じては今回のように医師の参加も考えられる。医師のニーズを考慮したプログラム内容に変更するなどの柔軟性

が必要である。

3) 自国で応用できるプランや教材の作成

研修員には、研修後すぐに活用し自国の保健医療の向上に役立てたいというニーズがある。特に性教育を初めとした健康教育については要望が高い。研修員のニーズを考慮しながら、研修員の国で応用できるプランや教材作成をプログラムに組み込んでいく必要がある。

4) 宿舎の充実と食材確保等の生活面での配慮

次回の研修から宿舎は変更となるので生活しやすくなるが、研修員は1ヶ月の異国での滞在である。特にモスリムで食のタブーがあり外食がほとんどできなく、食材に関しても肉類はハラミートという特別なものしか食べることができない。今回の研修員は野菜や魚介類を購入し、自炊し昼食は毎回手作り弁当を持参であった。梅雨時期の研修であるのでお弁当の保管場所や食材購入への配慮が求められる。また、お弁当の持参が必須であることから、食の安全を考えると基本的に研修は日帰りとする必要がある。

5) 学生との交流

ピアカウンセリングやENP学生との合同講義は研修員も学生もお互いの意見交換の場となっていた。今回研修日程の決定が遅くなり、学生との合同講義や交流の時間が十分でなかった。今後は学生の講義日程と研修員の講義日程を調整し、合同の講義を増やすなどの配慮があれば、お互いの文化交流や異文化理解につながる。

6. 最後に

今回の研修の運営にあたり、下記の機関、講座、学科の教職員の方々のご協力をいただきました。お蔭様で無事第1回目の研修を

終了することができました。ご協力を感謝いたします。

記

運営にあたっての協力者機関、講座、学科

- ・ 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 九州国際センター
- ・ 財団法人 日本国際協力センター (JICE) 九州支所
- ・ 宮崎大学 医学部 生殖発達医学講座 産婦人科学分野
- ・ 宮崎大学 医学部 社会医学講座 英語分野
- ・ 宮崎大学 医学部 外科学講座 泌尿器科学分野
- ・ 宮崎大学 医学部 総務課
- ・ 宮崎大学 国際連携センター
- ・ 宮崎大学 医学部 看護学科事務室
- ・ 宮崎大学 医学部 看護学科

以上

Annex I JICA地域別研修 中東地域 女性の健康支援を含む母子保健方策 日程

月/日		研修内容			宿泊
		午前10:00-12:00	午後13:00-15:00	15:00-17:00	
6月21日	木	来日			
6月22日	金	JICA九州 プリーフィング			JICA九州
6月23日	土	休日			JICA九州
6月24日	日				JICA九州
6月25日	月	JICA九州をチェックアウト	移動(北九州→宮崎)		宮崎市泊
6月26日	火	1 9:30 3階セミナー室(307号)集合 オリエンテーション 10:00 医学部長・病院長等との表敬訪問 医学部案内 【場所】 清武キャンパス 【担当】 甲斐次長、永瀬講師 【出席者】	13:15 学長、副学長との表敬訪問 【場所】 木花キャンパス 14:30 県庁国際政策課(本館1階) 15:00 県庁福祉保健部(3号館4階) 表敬訪問 【場所】 宮崎市内 【担当】 甲斐次長、永瀬講師 【出席者】	16:00 ウェルカムパーティー 【場所】 6階リフレッシュコーナー 清武キャンパス 【進行】 永瀬講師、許研修監理員 【出席者】 看護学科教員、看護事務、総務課、国際連携センター、医学部長、池ノ上教授他	宮崎市泊
6月27日	水	2 8:40 Job Report発表・ENPとの合同・意見交換 【場所】 プレゼンテーションルーム 【講師】 英語科 横山准教授、永瀬講師 【出席者】 ENP学生、教員他 《講義・討議》	オリエンテーション 研修に対する期待や目的の確認 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 永瀬講師 【出席者】 《講義・討議》	地域母子保健行政 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 地域・精神看護学講座 尾上教授 【出席者】 《講義》	宮崎市泊
6月28日	木	3 宮崎の母子保健 (健やか親子等) 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 永野主査(県、健康増進課) 《講義》	母子保健活動(母性看護の視点) 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 小児・母性(助産専攻)看護学講座 兵頭教授 《講義》	お互いの国の母子保健システムや活動についての意見交換 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 母性(助産専攻)看護学教員 《講義・討議》	宮崎市泊
6月29日	金	4 ピア教育とピアカウンセリング 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 熊本大学 前田教授 【出席者】 《講義と演習》			宮崎市泊
6月30日	土	5 9:30-16:00 大学生による大学生を対象としたピアカウンセリング 16:00-17:00 研修員と学生の意見交換 【場所】 プレゼンテーションルーム 【講師】 ピアサポート イン 宮崎(宮崎大学学生)、前田教授(熊本大学)、地域看護学教員、母性(助産専攻)看護学教員 【出席者】 《演習》			宮崎市泊
7月1日	日	休日			宮崎市泊
7月2日	月	振り替え休日			宮崎市泊
7月3日	火	6 周産期医療システム(周産母子センター・産婦人科病棟・外来) 【場所】 宮崎大学医学部附属病院4階産婦人科・周産母子センターフロア 【担当】 宮崎大学医学部生殖発達医学講座産婦人科学分野、産婦人科病棟及び周産母子センタースタッフ 【出席者】 《講義・見学・研修》 注)大学病院4階 産婦人科カンファレンスルーム集合 ユニフォーム(白衣)必要			宮崎市泊
7月4日	水	7 周産期医療システム(周産母子センター・産婦人科病棟・外来) 【場所】 宮崎大学医学部附属病院4階産婦人科・周産母子センターフロア 【担当】 宮崎大学医学部生殖発達医学講座産婦人科学分野、産婦人科病棟及び周産母子センタースタッフ 【出席者】 《講義・見学・研修》 注)大学病院4階 産婦人科カンファレンスルーム集合 ユニフォーム(白衣)必要			宮崎市泊
7月5日	木	8 日本助産師会とか母ちゃっ子クラブの活動 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 森助産師(か母ちゃっ子くらぶメンバー) 【出席者】 《講義》	13:00-14:00 か母ちゃっ子くらぶ活動 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 森助産師 【出席者】 《講義》	14:40-17:00 中学2年生への性教育思春期教育 (授業時間 15:20-16:10) 【場所】 木花中学校 宮崎市学園木花台南 【講師】 か母ちゃっ子くらぶメンバー 【出席者】 《見学・研修・討議》	宮崎市泊
7月6日	金	9 9:00-12:00 パパママ教室 【場所】 宮崎市保健所 宮崎市宮崎駅東 【引率者】 地域看護学教員 【出席者】 《見学・研修》	13:30-15:30 性感染症と母子感染 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 宮崎大学医学部 泌尿器科 濱砂講師 【出席者】 《講義》	16:30-17:30 学生との意見交換 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 英語科 玉田教授、永瀬講師 【出席者】 ENP学生 《講義・討議》	宮崎市泊
7月7日	土	休日			宮崎市泊
7月8日	日	休日			宮崎市泊
7月9日	月	10 日本看護教育および看護活動1 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 基礎看護学講座 東教授 【出席者】 《講義》	日本の看護教育および看護活動2継続教育 【場所】 3階セミナー室(307号) 【講師】 成人・老年看護学講座 土屋教授 【出席者】 《講義》	15:30-17:00 宮崎大学医学部附属病院見学 【場所】 宮崎大学医学部附属病院3階看護部 【担当】 病院看護部 【引率者】 草場学科長 《見学・研修》	宮崎市泊

- ※1 講義に関しては午前10:00-12:00 午後13:00-15:00 15:00-17:00の1日3コマを基本。講義時間中、担当者が適宜休憩時間や終了時間を設定していく。
 ※2 見学研修および、研修担当者の自由配慮で時間の変更は可能である。
 ※3 研修員の講義は、宮崎大学清武キャンパス(医学部)総合教育研究棟で実施。基本的講義室及び控え室は、3階セミナー室(307号)8:00-18:00使用可。
 ※4 ENP: English for Nursing Purpose 英語の講義科目名

7月10日	火	11	児童虐待 【場所】3階セミナー室(307号) 【講師】県立看護大 花野教授 【出席者】 《講義》	開業助産師と助産所の役割 【場所】3階セミナー室(307号) 【講師】母性(助産専攻)看護学教員 【出席者】 《講義・討論》	15:30-17:00 くすの木保育園設立経緯と活動見学 【場所】清武町木原職員宿舍敷地内 【担当】くすの木保育園職員 【引率者】小児看護学 野間口准教授 【出席者】 《見学・研修》	宮崎市泊	
7月11日	水	12	9:00 上田助産院健診活動 【場所】都城市南鷹尾42-18 【引率者】永瀬講師 【出席者】 《見学・研修》 *通訳2名必要	13:00-16:00 上田助産院での地域の子育て支援と意見交換 【場所】都城市南鷹尾42-18 【引率者】永瀬講師 【出席者】 《見学・研修・討論》 *通訳2名必要		宮崎市泊	
7月12日	木	13	都農への移動	13:30~ 高校生へのピアエデュケーションの実践及び活動開始の経緯 (授業時間 14:35-16:25) 【場所】都農高等学校 都農町 【講師】地域・精神看護学講座 鶴田准教授、小児・母性(助産専攻)看護学講座 水畑講師 ピアサポート イン 宮崎(宮崎大学学生) 《見学・研修》		宮崎市泊	
7月13日	金	14	9:00-12:30 女性相談事業と県保健所支援による自助グループ活動(ひよこの会:ダウン症親の会)の概要と見学 【場所】中央保健所 宮崎市霧島 【引率者】地域看護学教員 【出席者】 《講義・見学・研修》	14:00-16:00 県立宮崎病院 女性専用外来(外来設立の経緯や実際の外来見学) 【場所】県立宮崎病院 宮崎市北高松町 【引率者】母性(助産専攻)看護学 兵頭教授、基礎看護学講座 加瀬田助教 【出席者】 《講義・見学・研修》		宮崎市泊	
7月14日	土					宮崎市泊	
7月15日	日		休日			宮崎市泊	
7月16日	月		海の日	宮崎の出産・育児文化と歴史研修 鶏戸神宮、飴肥 日南へ移動【引率者】永瀬講師		日南市泊	
7月17日	火	15	9:30-16:00 池田助産院活動見学 【場所】日南市星倉4418 【引率者】永瀬講師 【出席者】 《見学・研修・討論》	16:00 宮崎市へ移動		宮崎市泊	
7月18日	水	16	9:30-11:30 びんくりボン活動(乳がん予防)と女性のセルフケア 【場所】県庁第3庁舎 会議室 【講師】永野主査(健康増進課) 【出席者】中村課長補佐 《講義》	13:00-17:00 3歳児健康診査見学 【場所】宮崎市保健所 宮崎市宮崎駅東 【引率者】地域看護学教員 【出席者】 《見学・研修》		宮崎市泊	
7月19日	木	17	9:00-12:00 つぼみの寮 施設概要と活動についての講義と見学 【場所】宮崎市吉村町沖の原 【引率者】 【出席者】 《講義・見学・研修》	13:15-14:45 子育て支援グループ設立経緯と活動見学 【場所】子育て支援センター 清武町大字船引 【引率者】地域看護学教員 【出席者】 《講義・見学・研修》	女性の生涯を通しての健康支援 【場所】3階セミナー室(307号) 【講師】県立看護大 菅沼教授 【出席者】 《講義・討論》	宮崎市泊	
7月20日	金	18	Domestic Violence (DV)の定義と現状 【場所】3階セミナー室(307号) 【講師】地域・精神看護学講座 村方助教 【出席者】 《講義》	NPOによるDVサポートの現状と現場 【場所】3階セミナー室(307号) 【担当】NPO法人 ハートスペースM 【出席者】 《講義・討論》		宮崎市泊	
7月21日	土		休日			宮崎市泊	
7月22日	日		休日			宮崎市泊	
7月23日	月	19	10:00-11:30 宮崎県看護協会 【場所】宮崎県看護等研修センター 宮崎市学園木花台西 【引率者】草場学科学長 【出席者】 《見学・研修》	13:00-17:00 いきいき女性セミナー 【場所】宮崎市保健所 宮崎市宮崎駅東 【引率者】地域看護学教員 【出席者】 《見学・研修》 注)簡単エクササイズの実技有 運動できる服装で参加		宮崎市泊	
7月24日	火	20	研修のまとめおよび不足分の補足 ファイナルレポート作成 【場所】宮崎大学 清武キャンパス 総合教育研究棟 6階 小児・母性(助産専攻)看護学講座研究室 【担当】永瀬講師他			宮崎市泊	
7月25日	水	21	ファイナルレポート(アクションプランを含む)発表会 【場所】プレゼンテーションルーム 【担当】永瀬講師 【出席者】教員、学生他	13:00-14:30 評価会 【場所】プレゼンテーションルーム 【出席者】担当教員他	14:50-15:30 閉講式 【場所】プレゼンテーションルーム 【出席者】JICA関係者、副センター長 医学部長 関係教員及び職員他	16:00 farewell party 【場所】6階リフレッシュコーナー 【進行】永瀬講師、許研修監理員 【出席者】同左	宮崎市泊

注) 7月23日~7月25日 3階セミナー室(307号)使用できないため、6階小児・母性(助産専攻)看護学講座研究室使用。

- ※1 講義に関しては午前10:00-12:00 午後13:00-15:00 15:00-17:00の1日3コマを基本。講義時間中、担当者が適宜休憩時間や終了時間を設定していく。
- ※2 見学研修および、研修担当者の自由配慮で時間の変更は可能である。
- ※3 研修員の講義は、宮崎大学清武キャンパス(医学部)総合教育研究棟で実施。基本的講義室及び控え室は、3階セミナー室(307号)8:00-18:00使用可。
- ※4 ENP: English for Nursing Purpose 英語の講義科目名

Annex II 研修員リスト

名前	Ms.Amal Mousa Abd Eljawad Abu <u>Shawish</u> アマルさん	Dr. Ghadir <u>Rajab</u> ガディールさん	Dr. Mariam Neda <u>Masomi</u> マリアムさん	Dr. Kawsar <u>Salehi</u> カウサルさん
出身	Jordan (ヨルダン)	Syria (シリア)	Afghanistan (アフガニスタン)	Afghanistan (アフガニスタン)
職種	助産師 (修士)	医師 (産婦人科)	医師 (産婦人科)	医師 (産婦人科)

Annex III 毎日の評価項目(和文)様式例

各研修項目に対する評価 (毎日の評価)

日付: 6月27日

研修員氏名:

国:

時間	項目		←非常に良い 悪い→				
10:00 ～ 12:00	Job Report 発表会 JICA 研修員 & ENP (English for Nursing Purposes) 学生	研修目的に適していたか?	5	4	3	2	1
		自国で活用できそうな内容であったか?	5	4	3	2	1
		自分にとって有益な内容であったか?	5	4	3	2	1
		資料や内容は、わかりやすかったか?	5	4	3	2	1
		時間は適切であったか?	5	4	3	2	1
	コメント (What's good / bad. etc.)						
13:00 ～ 15:00	オリエンテーション: 研修に対する期待や目的 の確認	研修目的に適していたか?	5	4	3	2	1
		自国で活用できそうな内容であったか?	5	4	3	2	1
		自分にとって有益な内容であったか?	5	4	3	2	1
		資料や内容は、わかりやすかったか?	5	4	3	2	1
		時間は適切であったか?	5	4	3	2	1
	コメント (What's good / bad. etc.)						
15:00 ～ 17:00	地域母子保健行政	研修目的に適していたか?	5	4	3	2	1
		自国で活用できそうな内容であったか?	5	4	3	2	1
		自分にとって有益な内容であったか?	5	4	3	2	1
		資料や内容は、わかりやすかったか?	5	4	3	2	1
		時間は適切であったか?	5	4	3	2	1
	コメント (What's good / bad. etc.)						

Annex III 毎日の評価項目(英文)様式例

Training Evaluation Table (Daily Report) for Each Subject

Date: 27—Jun Name of participant:

Country:

Time	Subject		←Excellent poor→				
			5	4	3	2	1
10:00 ～ 12:00	Job Report Presentation by JICA Participants & ENP (English for Nursing Purposes) Students	Suitability to purpose	5	4	3	2	1
		Applicability to your own country	5	4	3	2	1
		Benefits of training	5	4	3	2	1
		Understandability of program and handouts	5	4	3	2	1
		Adequacy of schedule	5	4	3	2	1
	Comment (What's good / bad. etc.)						
13:00 ～ 15:00	Orientation: Conformation of the Participants' Purpose and Expectation Toward the Training	Suitability to purpose	5	4	3	2	1
		Applicability to your own country	5	4	3	2	1
		Benefits of training	5	4	3	2	1
		Understandability of program and handouts	5	4	3	2	1
		Adequacy of schedule	5	4	3	2	1
	Comment (What's good / bad. etc.)						
15:00 ～ 17:00	Maternal & Child Health (MCH) Administration in Community	Suitability to purpose	5	4	3	2	1
		Applicability to your own country	5	4	3	2	1
		Benefits of training	5	4	3	2	1
		Understandability of program and handouts	5	4	3	2	1
		Adequacy of schedule	5	4	3	2	1
	Comment (What's good / bad. etc.)						

Annex IV ファイナルレポート(和文)

コース名:

国 名: XXX

氏 名: XXX

所 属: XXX

1. 研修カリキュラム、及びスケジュール全体について。

2. 研修科目（内容）で良かった点、及びその理由について。

3. 当該コースをより良くするための要望・意見、及びその理由について。

4. 帰国後、自国において活用出来る（役立つ）と思われる科目について。

5. 今回の研修の中で活用できる科目の内、1つとりあげて活用出来る具体的内容・活用方法・活用しようとする場合の問題点及び、その解決方法等をレポートしてください。

[具体案]

- 活用出来る具体的内容:

- 活用方法:

- 活用しようとする場合の問題点:

- その解決方法:

5. その他、意見・コメント等。

Annex IV Final Report(英文)

Name of the course: 2007 JICA Area Focused Training in Women's Health and Child Health Support for the Middle East Countries

Country :

Name :

Organization:

- 1. If you have any comments on the curriculum and the general schedule of the training course, please write.**

- 2. Which subject (content) did you think was useful? Please give reasons.**

- 3. If you have any requests or comments on how this training course can be improved, please write them, with reasons.**

- 4. Which subject did you think you will be able to apply (make use of) in your country, upon your return from Japan?**

- 5. Please choose one or two subject which you think can be applied in your country, and write a report on the specific points of what can be applied, the method of application, challenges you might face, and their solutions.**

Annex V 最終日日程表(和文)

【7月25日(水)】

ファイナルレポート(アクションプランを含む)発表会:10:00~12:00

会場 総合教育研究棟 1階プレゼンテーションルーム

司会:永瀬(宮崎大学)

1. 研修員 発表(1人10分程度)以後、質疑応答(各5分程度)

昼食(1時間)

評価会:13:00~14:30

会場 総合教育研究棟 5階看護学科会議室

司会:岡田(JICA九州)

1. 研修目標に添って、評価を行なう
参加者:研修員、担当者、JICA

閉講式:14:50~15:30

会場 総合教育研究棟 1階プレゼンテーションルーム

司会:許(JICE)

1. 開式のことば
2. JICA 挨拶 独立行政法人 国際協力機構九州国際センター 所長 笠原 秀昭
3. 本学挨拶 本学 国際連携センター 副センター長 位田 晴久 教授
4. 修了証書の授与 独立行政法人 国際協力機構九州国際センター
所長 笠原 秀昭
5. 研修員代表挨拶 Ms.Amal Shawish(ヨルダン)
6. 閉式のことば 本学 看護学科長 草場ヒフミ 教授

記念撮影

Farewell party:15:40~17:00

会場 総合教育研究棟 6階 リフレッシュコーナー

司会:許(JICE)

永瀬(宮崎大学)

立食(茶菓)

Annex V 最終日日程表(英文)

【July 25th 2007 】

Presentation & Discussion : 10 : 00~12 : 00

Place: Presentation Room on 1F, General Education/Research Bldg.

MC : Ms. Nagase (Univ. of Miyazaki)

*Presentation of the Final Report by JICA participants
(10 min. for each presentation, 5 min. for Q & A)

Evaluation : 13 : 00~14 : 30

Place: Conference Room on 5F(School of Nursing), General Education/Research Bldg.

MC : Ms. Okada (JICA Kyushu)

*Course Evaluation based on the JICA Questionnaire by JICA participants

Closing Ceremony : 14:50~15:30

Place: Presentation Room on 1F, General Education/Research Bldg.

MC : Ms. Heo (JICE)

- 1 . Opening remarks by Mr. Kasahara, Director General of JICA Kyushu
- 2 . Greetings by Prof. Inden, Center for International Relations, Univ. of Miyazaki
- 3 . Presentation of Certificates by Mr. Kasahara, Director General of JICA Kyushu
- 4 . Greeting by Ms. Amal Shawish, Jordan, the representative of the participants
- 5 . Closing remarks by Prof. Kusaba, School of Nursing, Faculty of Medicine, Univ. of Miyazaki

*Taking of commemorative photograph

Farewell party : 16:40~17:00

Place: Refresh Corner on 6F, General Education/Research Bldg.

MC : Ms. Heo (JICE)

Ms. Nagase (Univ. of Miyazaki)

*Refreshments provided (Stand-up style)

Annex VI 研修室を気持ちよく使用するためのルール(和文)

研修室を気持ちよく使用するためのルール

各自で注意すること

1. 研修開始時間前に机につきましょう。
2. ゴミは自分で責任をもって処分しましょう。
3. 机周りのゴミに気づいたら、ゴミ箱に捨てましょう。
4. ゴミは燃えるゴミと燃えないゴミに分別しましょう。
5. ペットボトルは、1階のゴミ箱等の専用ゴミ箱に捨てましょう。
6. 自分が使用したカップは、自分で洗いましょう。
7. 貴重品は、必ず持ち歩きましょう。(研修室に置き忘れないでください)
8. 帰宅する前には、机回りをきれいに片付けましょう。
9. 忘れ物ないようにして帰りましょう。

当番を決めて行いましょう。

1. 朝研修室に到着したら、電気ポットにお水をいれて、コンセントをいれてください。
2. 部屋を出る時は、冷房と電燈のスイッチを必ず切ってください。
3. お砂糖等が少なくなったら、許 珠美さんもしくは永瀬に伝えてください。
4. 白板等が汚れていたら、きれいにしてください。
5. 帰る前には、電気ポットのお湯を捨て、コンセントを抜いてください。
6. スプーン等が汚れていたら、洗ってください。
7. 茶器の置いてあるテーブルが汚れていたり、乱れていたらきれいにしてください。

以上



2007年 JICA 地域別研修 宮崎大学医学部看護学科

Annex VI 研修室を気持ちよく使用するためのルール(英文)

Rules for Using the Seminar Room Comfortably Everyday ♪♪

For Each Participant:

1. Please be seated before the starting time of the class.
2. Let's make sure to dispose of your trash by yourself before leaving.
3. Let's put away some other trash around your table into a trash box, too, if you recognize it.
4. Please separate nonburnable from burnable trash.
5. Special trash box for PET bottles is on 1F.
6. Please wash your cup after using it by yourself.
7. Please make sure not to leave your valuables in the room.
8. Let's check around your table and clean it before leaving.
9. Don't forget anything when you leave after the class!

Let's Draw Up the Duty Among the Participants for the Following Work:

1. Plug in the electric pot after filling the water in it upon arrival.
2. Turn off the light and the air conditioner when leaving the room.
3. Let Ms. Nagase or Ms. Heo know in the case you run out of sugar etc.
4. Help wiping off the white board if necessary.
5. Drain off the remaining hot water in the pot and plug off before leaving.
6. Wash spoons etc. in case you find a stain on them.
7. Keep the tea table always neat and clean.

Thank you for your cooperation.



FY2007 JICA Area Focused Training Course
School of Nursing, Faculty of Medicine, Univ. of Miyazaki

INFORMATION ON AREA FOCUSED TRAINING COURSE IN

*Women's Health and Maternal and Child Health
Support for the Middle East Countries*

JFY 2007

中東地域：女性の健康支援を含む母子保健方策

COURSE NO.: J-07-04083

(Project No: 0784227)

June 21, 2007 – July 26, 2007



THE GOVERNMENT OF JAPAN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY



Preface

The Japanese Government extends official development assistance (ODA) to developing countries in order to support self-help efforts that will lead to economic progress and a better life for the citizens of those countries.

Since its foundation in 1974, the Japan International Cooperation Agency (JICA) has implemented Japan's technical cooperation under the ODA programme.

Currently, JICA conducts such activities as training, dispatch of experts, provision of equipment, project-type technical cooperation, development study, dispatch of cooperation volunteers (JOCV), survey and administration of capital grant aid programmes.

The training programme for overseas participants is one of JICA's fundamental technical cooperation activities for developing countries. Participants come to Japan in order to obtain knowledge and skills in a wide variety of fields.

The objectives of the JICA training programme are:

- (1) to contribute to the development of human resources who will promote the advancement of developing countries, and
- (2) to contribute to the promotion of mutual understanding and friendship.

Kyushu International Center (JICA Kyushu) is one of JICA domestic centers located in Kitakyushu City to conduct various JICA schemes of training programmes and others in Kyushu area. JICA Kyushu's training programmes cover a wide variety of specialities from agriculture to mechatronics with special priorities on 1) industrial technology, 2) environmental issues, 3) health and medicine.

The area focused training course, "*Women's Health and Maternal and Child Health Support for the Middle East Countries*" is designed for national / local government, NGO staff in charge of maternal and child health or women's health. Participants are expected to understand system and policies in the area of maternal and child health and support to improve women's health in Japan.

Provided knowledge and techniques will contribute to the promotion of public welfare as well as sustainable social and economic development of the countries. Ultimate goal for the participants is to explore the solution of maternal and child health issues and the improvement of women's health in each county in the Middle East Area.

I. ESSENTIAL FACTS

Course Title (No.)	Women's Health and Maternal and Child Health Support for the Middle East Countries (J-07-04083)
Duration	June 21, 2007 – July 26, 2007
Deadline for Application	April 20, 2007 *for acceptance of JICA office (or the Embassy of Japan)
Number of Participants	5
Language	English (or Japanese with English translation)
Target Group	National/local government or NGO in charge of maternal and child health or women's health
Course Objectives	<p>The purpose of this training course is to acquire basic understanding on system and policies in the area of maternal and child health and support to improve for women's health in Japan.</p> <p>There are three objectives as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) to understand structure and policies for maternal and child health and women's health support in Japan (2) to understand community activities of self-help group (volunteers) and experts. (3) to learn service and support activities to protect women against violence and lead women to participate in health management activities
Training Institution	<p>School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki Address: 5200, Kihara, Kiyotake-cho, Miyazaki, 889-1692 JAPAN e-mail: nagase@fc.miyazaki-u.ac.jp TEL/FAX: +81-985-85-9729 (81: country code for Japan, 985: area code) URL: http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~kokusai/englishpage/index.html</p>
Accommodations	<p>(on 21 June-25 June) Kyushu International Center (JICA KYUSHU), JICA (tentative*) Address: 2-2-1 Hirano, Yahata Higashi-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka, 805-8505 JAPAN email: kictp2-05@jica.go.jp TEL: +81-93-671-6311 FAX: +81-93-671-0979 (81: country code for Japan, 93: area code) URL: http://www.jica.go.jp/branch/kic_e/kic_top_e.html * Please check the information about JICA KYUSHU through the homepage. * You are able to get the information about Kitakyushu-shi (Kitakyushu City) from the following official website. URL: http://www.city.kitakyushu.jp/</p> <p>(on 25 June-26 July) Miyazaki Legal Hotel (tentative*) Address: 1-5-8 Tachibanadori Higashi, Miyazaki, 880-0805 JAPAN TEL: +81-985-26-7411 FAX: +81-985-26-7532 URL : http://www.miyazaki-legal.jp/top.html</p> <p>*If no room is available at KIC, JICA will arrange accommodations for participants at other appropriate places.</p>
Allowances & Expenses	The Government of Japan provides the following allowances and covers the following expenses through JICA in accordance with relevant laws and regulations.

	<p><u>Details:</u> Round-trip air ticket between an international airport designated by JICA and Japan, accommodation allowance, living allowance, outfit allowance, shipping allowance, expenses for JICA study tours, free medical care for participants who become ill after arrival in Japan (<u>costs related to pre-existing illness, pregnancy and dental treatment are not included</u>), etc.</p>
--	---

II. CURRICULUM

I Job Report Presentation (on 27 June, 2007)

To make a presentation on participants' duties and the situation of maternal and child health in participants' countries. It is favourable if participants are able to bring a power point presentation when they come to Japan. Presentation would be 15 minutes per each participant (including 5 minutes Q&A Session).

II Lecture

1. Maternal and Child Health Policies in Japan (government)
2. Maternal and Child Health Policies in Miyazaki Prefecture (municipality)
3. System of Maternal-Fetal Medicine in Japan and Miyazaki Prefecture
4. Women's Health and Medical Check Up for Cancer prevention (cervical and breast cancer)
5. Sexually Transmitted Infection and Mother to Child Infection
6. Peer Education for Adolescent Sexual Health with Practice
7. Domestic Violence and Child Abuse in Japan and Miyazaki Prefecture

III Observation and Tour

1. University of Miyazaki Hospital
2. Maternal and Child Health Activities (government level)
3. Maternal and Child Health Activities (community level)
4. Maternity Clinic
5. Gender-Specific Medicine
6. Peer Education
7. Adolescent Sexual Health
8. Support Activities for Violence
9. Nursery School
10. Other Health-Care Support Activities

IV Action Plan Presentation (on 25 July, 2007)

To make a presentation on outputs of this training course.

Participants are required to make a power point presentation. Presentation would be 15 minutes per each participant (including 5 minutes Q&A Session).

The above curriculum may be subject to minor changes.

III. REQUIREMENT FOR APPLICATION

Applicants should:

- (1) be nominated by their government in accordance with the procedures mentioned in **IV (Procedures for Applications)** below,
- (2) be a certified nurse, midwife, public health nurse or health worker with more than 5(five) years' experience in the field of Maternal and Child Health or Women's Health OR be with present or potential responsibilities for education for nurse, midwife, public health nurse, or health worker.
- (3) be 25-45 years of age
- (4) have a sufficient command of spoken and written English since training will be conducted in English

- for example TOEFL (Test of English as a Foreign Language) Score 500 or above, or the Cambridge First Certificate (Copy of the proof is preferable),
- (5) be in good health, both physically and mentally, to undergo the training, (Pregnancy is regarded as a disqualifying condition for participation in this training course.) ,
 - (6) not be serving in any form of military services.

ATTENTION

Participants are required:

- (1) not to change course subjects or extend the course period,
- (2) not to bring any members of their family,
- (3) to return to their home countries at the end of their course according to the international travel schedule designated by JICA,
- (4) to refrain from engaging in political activities or any form of employment for profit or gain, and
- (5) to observe the rules and regulations of their place of accommodation and not to change accommodations designated by JICA.

IV. PROCEDURES FOR APPLICATIONS

1. Government desiring to nominate applicants for the course should fill in and forward one(1) original and three (3) copies of the Nomination Form (Form A2A3) for each applicant, to JICA office (or the Embassy of Japan) **by April 20, 2007.**
2. JICA office (or the Embassy of Japan) will inform the applying government whether or not the nominee's application has been accepted **no later than May 21, 2007.**
3. **Job Report**
 - (1) Applicants are required to prepare a **Job Report**, which describes the present situation of, as well as the direction of and problems related to, maternal and child health and women's health in applicants' countries. It needs to be submitted with the Nomination Form.
 - (2) The Job Report should be written in accordance with the subjects and format explained in **ANNEX**. It should be written in English and summarized in approximately 4(four) to 5(five) pages.
 - (3) Each participant will have 15 minutes presentation on their Job Reports at the beginning of the course (tentatively on June 27, 2007).

The contents of Job Report will be referred to during our selection process, and **application without Job Report will not be accepted.**

V. OTHER MATTERS

1. Pre-departure orientation is held at JICA overseas offices (or the Embassy of Japan) to provide the selected candidates with details on travel to Japan, conditions of training, and other matters. Participants will see a video, "TRAINING IN JAPAN", and will receive a textbook and cassette tape, "SIMPLE CONVERSATION IN JAPANESE". A brochure, "GUIDE TO TRAINING IN JAPAN" will be handed to each selected candidate before (or at the time of) the orientation.
2. Participants who have successfully completed the course will be awarded a certificate by JICA.
3. International Exchange with Local Communities
JICA encourages international exchange between JICA participants and local communities. Participants will have a chance to visit elementary schools or junior high schools. Therefore, participants are recommended to bring their national costumes or crafts and materials such as

cassette tapes and photographs that will make the exchange programme more fruitful.

4. This training is designed for the purpose of acquiring the knowledge and the techniques of Japan, NOT for a specific participant's country. Participants are kindly requested to understand the differences and not to insist on the techniques of their countries.

Annex

***Women's Health and Maternal and Child Health Support for the Middle East Countries
(JFY2007)***

Job Report

Name:

Country:

Organization and present post:

E-mail:

FAX:

Remarks 1: The Report should **be typewritten in English** (12-point font, A4 size paper).

Remarks 2: Each participant is required to have presentation in 15 minutes (including 5 minutes Q&A Session) based on this Job Report at the beginning of the training for the purpose of making the training more effective and fruitful by comprehending the situations and problems of the participants each other.

1. Main tasks and organization chart

(1) Health care system in your country

(2) Job description

(3) Organisation chart (starting from the section as the lowest level) which is responsible for applicants' position. (Please mention which section/department you are belonging)

2. Education system of nurse, midwife, public health nurse or health worker

3. Existing problems in your department (up to 1 page)

(1) Current problems and issues you are facing

(2) Countermeasures for these problems

(3) Obstacles in the process of solving those problems

4. Expectations for the training course

(1) Most interesting subjects or topics in the training course (up to 5 subjects)

(2) How do you expect to apply skills and knowledge for your problem solving according to listed items in curriculum



**Japan International Cooperation Agency (JICA)
Kyushu International Center (JICA KYUSHU)**

Address: 2-2-1, Hirano, Yahata Higashi-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka,
805-8505 Japan

Tel : +81^(*) -93^(**) -671-6311 [* : country code for Japan]
Fax : +81^(*) -93^(**) -671-0979 [** : area code for Kitakyushu]

URL http://www.jica.go.jp/branch/kic_e/kic_top_e.html

E-mail : kictp2-05@jica.go.jp